

朝町山ノ口Ⅱ

— 福岡県宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告 —

宗像市文化財調査報告書 第34集

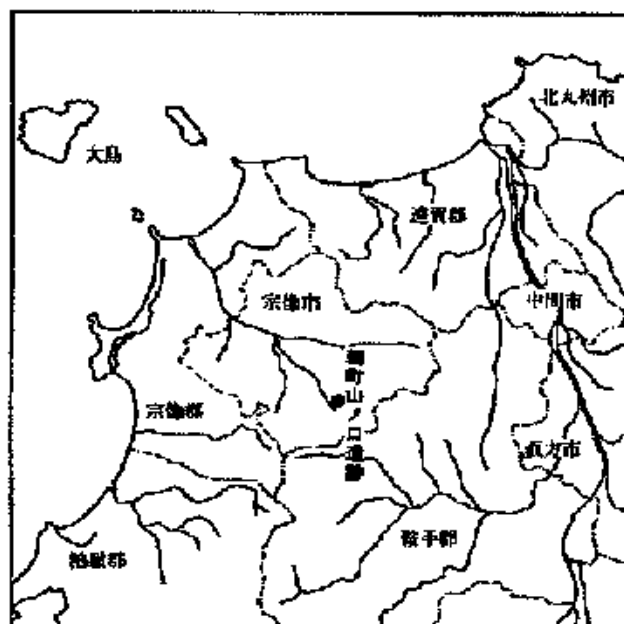
1991

宗像市教育委員会

朝町山ノ口Ⅱ

— 福岡県宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告 —

宗像市文化財調査報告書 第34集



1991

宗像市教育委員会

序 文

宗像市は福岡県福岡市と北九州市の中間に位置しており、両大都市への通勤圏として人口が増えつつあり、みどり豊かで、魅力ある「学術・文化都市」構想実現への歩みを着実に続けています。

宗像市における農業基盤整備、宅地開発、公共施設の建設等は、必然的に埋蔵文化財の新たな発見を生み、様々な保存措置を図ってきました。

緊急発掘調査を実施できた遺跡について、調査の成果を公にできたものはわずかであり、責務を果たせないでいる文化財行政の怠慢を深く反省する次第です。

本書は、立ち遅れている埋蔵文化財調査の成果を報告するために、市の単独事業としてとりくんだ報告書です。本書が、広く文化財の保護、学術研究及び地域文化創造に役立つ一資料として貢献することを念願いたしております。

平成3年3月30日

宗像市教育委員会

教育長 森 下 照 清

例 言

1. 本書は1982・1983年に県営ほ場整備事業に先立ち、発掘調査を実施した朝町山ノ口遺跡の整理報告書である。
2. 本書使用の遺物実測および写真撮影は原俊一による。
3. 本書使用の製図は清家直子、徳永映子が行った。
4. 石材の鑑定は福岡教育大学名誉教授の山本博達氏にお願いした。
5. 本書の執筆・編集は原が行った。

本文目次

第一章	はじめに	1
第二章	調査の記録	1

挿図目次

第1図	発掘調査された遺跡 (1/50,000)	2
第2図	朝町山ノ口遺跡遺構配置図 (1/400)	3
第3図	古墳主体部の平面形 (1/100)	5
第4図	古墳主体部の閉塞図1 (1/40)	9
第5図	古墳主体部の閉塞図2 (1/40)	10
第6図	5号墳後室遺物出土状況 (1/20)	12
第7図	6号墳前室遺物出土状況 (1/6)	12
第8図	古墳出土鉄器の分類 (1/2)	13
第9図	出土須恵器杯蓋・杯身の分類 (1/4)	15
第10図	古墳主体部玄室(後室)の法量分布	16
第11図	1号墳出土遺物実測図1 (1/3)	20
第12図	1号墳出土遺物実測図2 (1/3)	21
第13図	1号墳出土遺物実測図3 (1/3)	22
第14図	1号墳出土遺物実測図4 (1/4)	23
第15図	1号墳出土遺物実測図5 (1/3)	24
第16図	1号墳出土遺物実測図6 (1/3)	25
第17図	2号墳出土遺物実測図 (1/3)	25
第18図	3号墳出土遺物実測図1 (1/3)	26
第19図	3号墳出土遺物実測図2 (1/4)	27
第20図	4号墳出土遺物実測図1 (1/2)	27
第21図	4号墳出土遺物実測図2 (1/3)	27
第22図	4号墳出土遺物実測図3 (1/3)	28
第23図	5号墳出土遺物実測図1 (1/2)	28
第24図	5号墳出土遺物実測図2 (1/3)	29
第25図	5号墳出土遺物実測図3 (1/3)	30
第26図	5号墳出土遺物実測図4 (1/3)	30
第27図	5号墳出土遺物実測図5 (1/3)	31

第28图	6号墳出土遺物実測図1 (1/2)	32
第29图	6号墳出土遺物実測図2 (1/3)	33
第30图	6号墳出土遺物実測図3 (1/3)	33
第31图	9号墳出土遺物実測図1 (1/3)	33
第32图	9号墳出土遺物実測図2 (1/3)	34
第33图	9号墳出土遺物実測図3 (1/4)	34
第34图	11号墳出土遺物実測図1 (1/2)	34
第35图	11号墳出土遺物実測図2 (1/3)	34
第36图	11号墳出土遺物実測図3 (1/4)	35
第37图	12号墳出土遺物実測図 (1/2)	35
第38图	13号墳出土遺物実測図 (1/3)	35
第39图	13・17号墳間溝出土遺物実測図 (1/4)	35
第40图	15号墳出土遺物実測図1 (1/2)	36
第41图	15号墳出土遺物実測図2 (1/3)	36
第42图	15号墳出土遺物実測図3 (1/3)	37
第43图	16号墳出土遺物実測図 (1/2)	37
第44图	17号墳出土遺物実測図 (1/2)	37
第45图	18号墳出土遺物実測図 (1/2)	37
第46图	20号墳出土遺物実測図 (1/3)	37
第47图	採集遺物実測図1 (1/3)	37
第48图	採集遺物実測図2 (1/4)	37

表 目 次

表1	古墳の規模一覧	18
表2	古墳主体部計測表	19
表3	出土遺物一覧	38

第一章 はじめに

本書は県営南郷地区は場整備事業にかかる、宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡発掘調査の整理報告である。調査の概要および出土遺物については『朝町山ノ口Ⅰ』として報告済みであり、今回は出土遺物を中心とした報告となる。

発掘調査の概要は以下のとおりである。

所在地	宗像市大字朝町1527番地
調査主体	宗像市教育委員会
調査期間	1983年2月15日～5月29日
調査面積	2500㎡
位置環境	約川支流の朝町川の開析により形成された、朝町谷奥に位置する丘陵先端に占地する
遺跡立地	標高40m前後の丘陵稜線及び緩斜面
遺構	古墳(小形石室を含む)22基、焼土坑1基
主な遺物	鉄鉋、金釧、鉄斧、鉄刀、刀子、鉄鎌、須恵器、土師器、瓦器

各古墳は畑地造成により、墳丘盛土を全て失っており、古墳の規模を明らかにすることは困難であった。主体部の横穴式石室は、上部構造を失い、全容を知ることはできない。

22基の墳墓は、調査区内で全期しており、古墳の立地、石室の構造、出土遺物から当該遺跡の検討を行い、まとめたい。

第二章 調査の記録

1. 古墳の立地

古墳群は朝町谷に突き出た丘陵先端に占地する。調査区は丘陵基部との間が鞍部となり、墳墓地は独立丘陵状となっている。

古墳は丘陵稜線上と西側斜面を除く北・東・南方向の緩斜面に配置があり、6～7世紀の古墳立地が南側斜面に位置する傾向が一般的であるのに対し、当該遺跡の古墳配置は特異である。

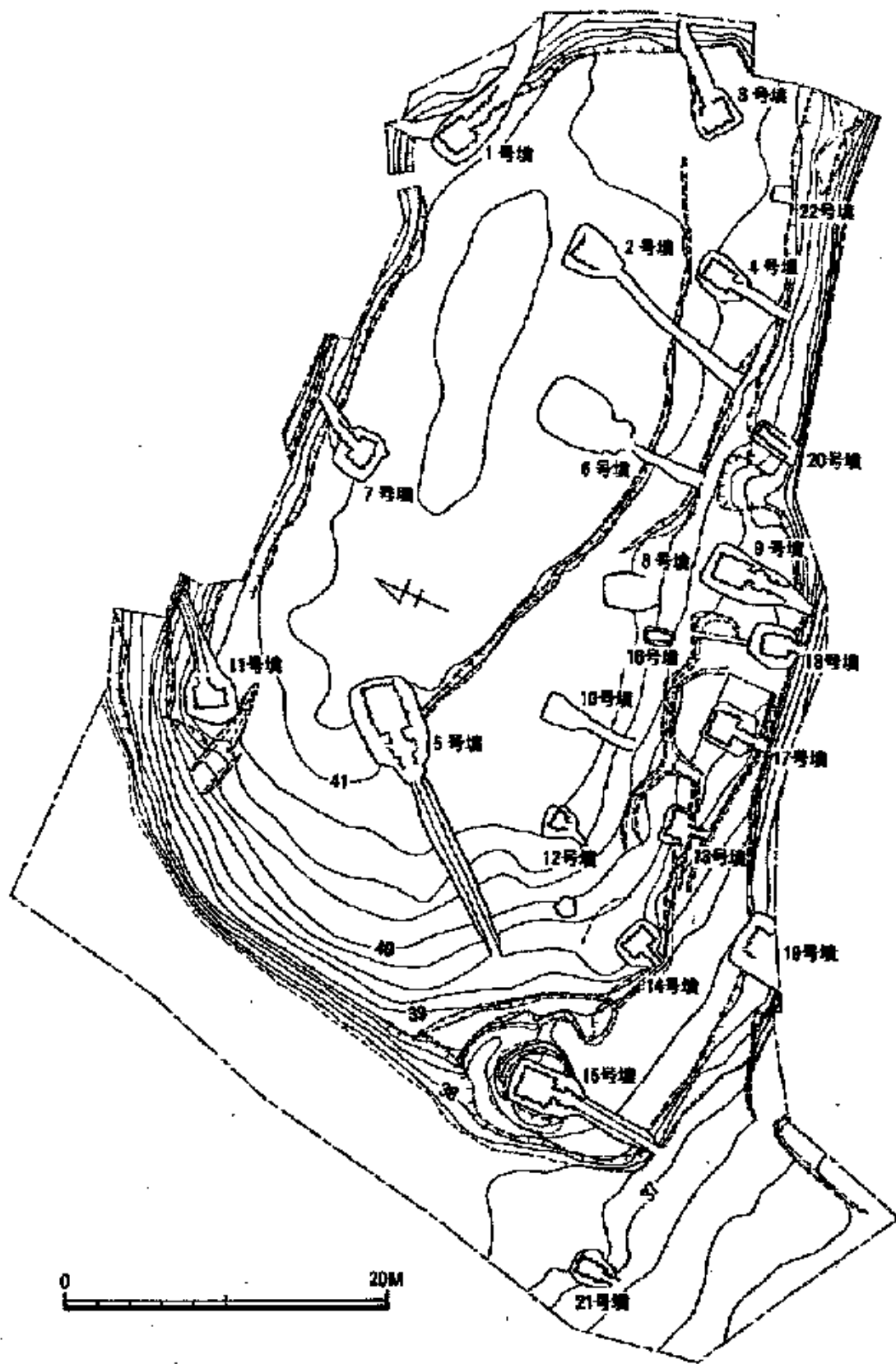
丘陵稜線上には、5・6・2号墳が並び、5号墳が群中で最初に築造された盟主墳と考えられる。

22基の内、18基は主体部の開口部が南を向いており、大勢を占める。東および北側斜面に開口する1・3・7・11号墳は、当該墳墓中では従的位置にあり、南側斜面に築造できなかったことは、集団内での造墓規制によるものであろう。このような規制は南側斜面の古墳配置にも現われており、5・6号墳間には古墳が築かれず、5・6号墳の墓道先端と9・15・19号墳を結んだ線の内側に8基の小形墳が密集している。18号墳は9号墳の墳丘を削るようには築かれ、円墳としての墳丘盛土は9・17号の墳丘と重なり合っていたものと推定できる。このことから、この丘陵に古墳を築造する当初の段階で、1単位の墓域は一定の規制のもとに区画されていたものとする事ができよう。



第1図 発掘調査された遺跡 (1/50,000)

- | | | | |
|-------------|------------|-------------|-------------|
| 1. 久戸古墳群 | 2. 稲元古墳群 | 3. 稲元日焼原遺跡 | 4. 須恵須賀浦遺跡 |
| 5. 平等寺半田古墳群 | 6. 城ヶ谷古墳群 | 7. 三郎丸古墳群 | 8. 武丸大上ヶ遺跡 |
| 9. 石丸遺跡 | 10. 東郷高塚古墳 | 11. 久原遺跡 | 12. 曲香細遺跡 |
| 13. 畠地原梅木遺跡 | 14. 名残高田遺跡 | 15. 光岡長尾遺跡 | 16. 朝町妙見遺跡 |
| 17. 光岡草場遺跡 | 18. 王丸河原遺跡 | 19. 野坂一町間遺跡 | 20. 大徳町町口遺跡 |
| 21. 野坂ホチ田遺跡 | 22. 浦谷古墳群 | 23. 朝町山ノ口遺跡 | 24. 野坂中山遺跡 |



第2回 朝町山ノ口遊路遺構配置図 (1/400)

2. 墳丘

墳丘盛上を全て失っており、墳形、規模を明確にし得ないが、古墳を区画する馬蹄形溝から墳丘の復元を試みたい。

古墳を区画する馬蹄形溝が確認できた古墳は13～15・17号墳である。いずれも丘陵高位を馬蹄形に掘り込み、溝断面は逆台形状となる。これらの溝から、古墳群は全て円墳であったものと考えられる。

上体部の玄室中心を基点として、石室先端までを半径として折り返し、墳丘規模を推定すると、最大径の5号墳で10m、最小径の16・22号墳で3mとなる。

古墳の墓道は、その一部が墳丘に取り込まれており、5号墳の墳丘規模は最大15m前後まで復元できよう。密集する古墳については、その立地と推定最小径から、それほど大きくなるものではない。2・5号墳で確認された長い墓道は、緩斜面立地と深い築墳に起因するものである。

3. 石室平面形

22基の埋葬主体は、横穴式石室と小形の壙穴式石室である。横穴式石室は複室構造となるものが1・5・6・9・16・19(?)号墳の6基であり、単室の石室は両袖と無袖のものに分けられる。宗像地域の中小古墳の横穴式石室は、6世紀前半代を境にして、埋葬位の変化がみられる。前者は開口方向に平行する埋葬方法をとるのに対し、後者では直交して伸屋埋葬ができるようになる。さらに7世紀に入って、石室の小形化やT字形石室、無袖の石室が出現する段階で主軸平行の埋葬位に変化する。

当遺跡の玄室奥壁の幅を比較すると、157cm以上の幅をもつ古墳は13基あり、成人の主軸直交での埋葬は充分可能である。これとは別に、123cm以下の幅をもつ古墳が8基あり、成人を伸屋埋葬するためには、主軸平行の埋葬位をとらざるを得ない。

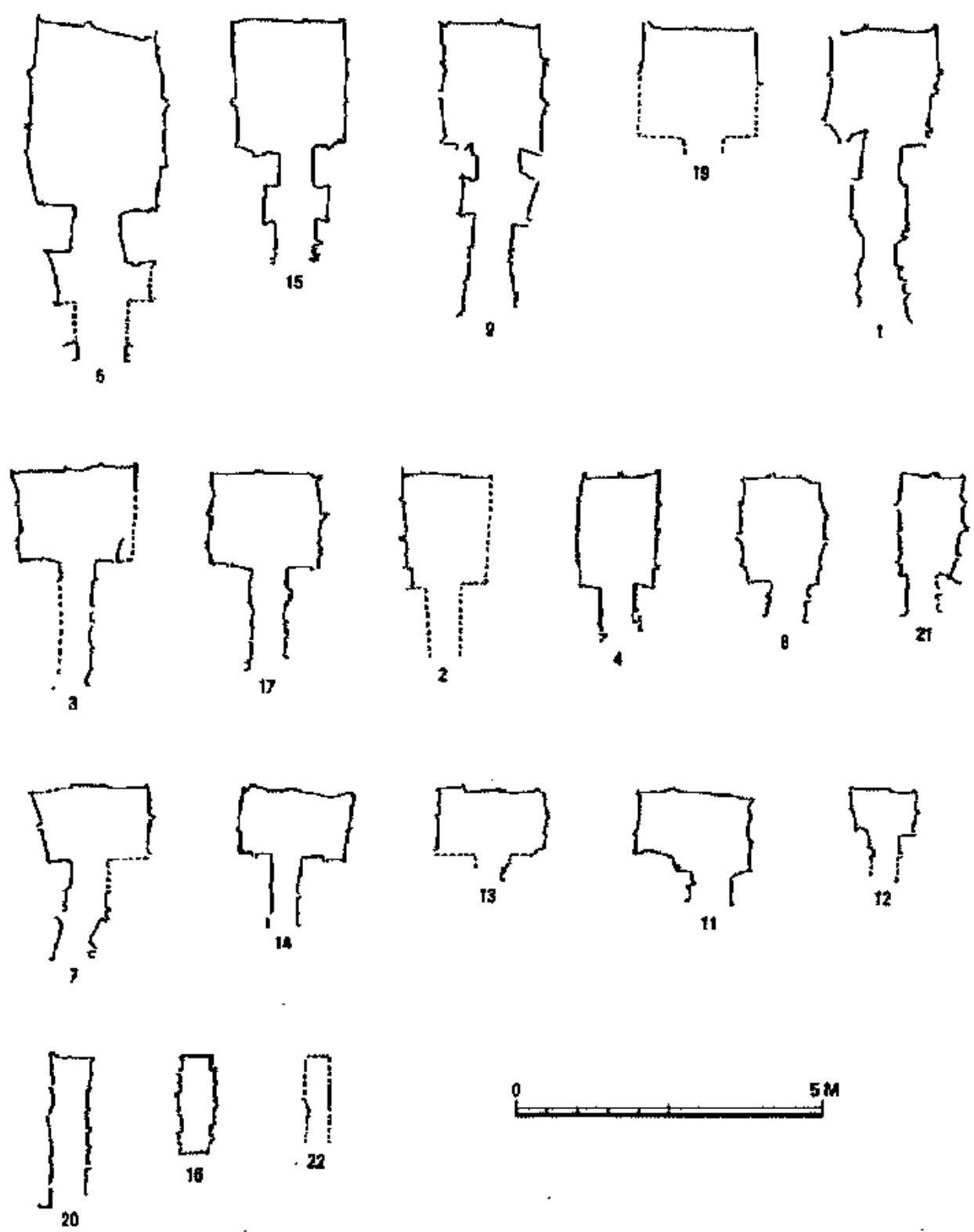
成人を伸屋埋葬する空間として長さ150～160cm、幅40～50cmあれば十分と考えられる。この空間を各古墳の玄室プランに当てはめると16・20・22号墳は1体、4・7・8・10・11・13・14・18・21号墳は2体、その他の古墳は3体以上の埋葬が片付けなしでできる。12号墳は成人の伸屋埋葬空間が確保できないため、小児あるいは複次葬の可能性もある。22基の石室は玄室の空間、平面形、石材、石積み等の検討により、次のとおり細分した。

1類(5・6号墳)

玄室平面形は縦長長方形となり、複室構造の石室である。5号墳は左右側壁がやや膨らむもので、奥壁が主軸に直交せずに玄室平面形は歪んでいる。前室は長さ比べ、幅の広い平面形となる。前室の前面は石材を失っており明確にできないが、羨道を造らずに短い前庭を付設するものと考えられる。

2類(9・15号墳)

玄室規模は1類に比べ、縮小化し、縦長長方形の平面形で、各壁とも直線的となる。前室の平面形は1類同様に幅の広い横長長方形である。前室の前面は羨道を造らずに前庭を短く付設しているが、9号墳の前室袖石の前面の一石は腰石となっており、この部分に天井石をのせることは可能である。



第3図 古墳主体部の平面形 (1/100)

3類 (1・3・17・19号墳)

石室は単室と複室があり、玄室の平面形は正方形となる。A・Bに細分する。3A類は1・19号墳の複室構造の石室平面形で、玄室面積は2類に近い。1号墳は各壁とも整わないで走りが認められる。前室は幅が減少して、ほぼ正方形となるが、2類に比べると退化傾向にある。前室の前面は羨道を造らず、前庭を付設して終わる。玄門の袖石配置は2類石室に類似する。

3B類は3・17号墳が相当し、A類に比べて石材の小形化と玄室面積の縮小化が認められる。17号墳は玄室前面に玄門袖石と面を合わせるようにして羨道を造っている。B類の玄門袖石の配置には2類石室との類似が見られる。

4類 (2・4・18・21号墳)

玄室平面形は縦長長方形の単室構造の石室である。3類に比べて玄室面積の縮小と石材の小形化が進む。この類も平面形と石材配置等からA・Bに細分する。4A類は2・4号墳が相当し、石室の各壁とも直線的で整っており、丁寧さが見られる。玄室前面は玄門袖石と面をそろえるが、2号墳には羨道が取り付く可能性がある。4B類は8・21号墳が相当し、壁面が整っておらず、腰石の石材に未加工のものが認められる。玄門構造には両袖ながら、片袖状に配置する傾向がある。

5類 (7・11・12・13・14号墳)

玄室平面形は横長長方形となる単室構造の石室である。玄室規模と前面の構造からA～Cの細分を行う。5A類は7・14号墳が相当し、4類に比べて、玄室面積が縮小傾向にある。玄室平面形は比較的整っており、玄門主軸は中央からやや左側に位置する。玄室前面は袖石と面を合わせた羨道を造っている。5B類は11・13号墳が相当し、玄室平面形に歪みがあり、石材の配置に継ぎ足しが見られる。玄門は主軸から右側へ寄っており、玄門部で石室は終わっており、羨道を付設しない。5C類は12号墳が相当し、小形の石室で、成人の伸展埋葬に適さない構造となる。この類には8・10号墳の石室が含まれる可能性がある。

6類 (20号墳)

玄室面積をさらに縮小した無袖の横穴式石室構造である。比較的整った縦長長方形のもので、幅57cmは成人1体分の埋葬を可能にする石室である。

7類 (16・22号墳)

埋葬空間の最も小さい、小形の横穴式石室である。縦長長方形の平面形は、長さ145～157cm、幅57～40cmあり、成人1体の埋葬が可能である。

宗像地域の中小古墳に横穴式石室が採用されるのは5世紀中頃であり、以後玄室空間の拡大が進行し、6世紀中頃から後半には玄室空間は最大となる。この時期を境にして、以後の玄室空間は縮小傾向となり、ほぼ7世紀の後半には単葬墓としての小形石室をもって石室構築は終わりを付ける。

当遺跡の古墳主体部の変遷も上記の傾向と同じ経過を辿ることが立地、石室構造から認められる。

人骨および副葬品による埋葬位や追葬等を明らかにできないが、石室構造の検討から復葬から単葬への流れを認めることができる。

4. 石室の石積み

石室壁体の残りが悪く、石積みの構造を全て明らかにできないが、先の石室平面形の分類に沿って検討を加えたい。

1類

5号墳の腰石は奥壁2石、側壁は3石と4石の面取りの比較的良い割石を横位に配している。壁体石積みは割石の平積みで、煉瓦積みを行っているが、側壁の奥壁側は縦に石積みの目路が通る重箱積みが見られる。壁面は下段から持ち送りが見られる。

2類

腰石の石材と配置は15号墳がより1類に近いが、石材はやや小振りとなる。壁体の石積みは平積みが多く、煉瓦積みと重箱積みが併用されているが、1類に比べて重箱積みが目立つ。1類石積みでは各段の石積み上段を、常に水平に保とうとしているが、当類では石積み各段は水平とはならず、15号墳の左側壁では前室側へ、奥壁では左側壁へ向かっての傾斜が認められる。

3A類

腰石の石材は2類に比べ、大きさは変わらないが、面取りに手抜きが認められる。1号墳の左右側壁では、平面形調整のために小形石材を補っている。壁体の石積みは平積みが減少して、石材の広い面を使った表積みが増えており、石積みの目路はジグザグではなく、斜めに入っている。前室側壁から前面の石積みは、小形割石の乱積み状態が認められる。

3B類

腰石の石材は小振りとなる。8号墳に比べ、17号墳の石材は比較的に面取りが丁寧である。壁体の石積みは平積みと表積みの併用が見られ、重箱積みが主体となる。

4A類

腰石の石材は石室の小形化に併行して小振りとなるが4号墳の石材は、割石の面をよく整えている。4号墳の壁体は割石の平積みを行う点で丁寧さが見られる。

4B類

腰石の石材は小形になり、一部に割石未調整のものが使われている。壁体の石材は腰石と格差が小さい。積み方は石材の面を合わせるものが少なくなっている。

5 A類

腰石の石材は割石の面取りに手抜きのあるものが増えている。壁体の石積みは奥壁では乱積みが顕著である。

5 B類

5 A類に比べ、腰石材は小形となり、割石未加工材が多い。壁体は乱積みとなる。

5 C・6・7類

腰石および壁体の石材は同質化している。壁体の石積みは小形割石の乱積みである。

以上、石室平面形の分類ごとに壁体の石積みを検討したが、1・2類石室では板状割石の利用が見られ、平積みを基本として、棟瓦積みに一部重箱積みが認められる。3類石室では割石は塊状となり、平積みに加えて石材の広い面を使う表積みが認められ、目路が斜めに通る積み方と重箱積み、さらに乱積みが行われている。4類では腰石と壁体石材の大きさに差が少なくなり、割石の形状が塊状となる。石積みの上下面は不揃いとなる乱積みが多くなる。5類以降になると、割石は小形の塊状となり、乱積みで壁体を構成している。1～7類石室の壁体は玄室平面形の縮小化と併行して石材は小形となり、割石は板状から塊状と変化の流れを見ることができる。石積みは明確に分類できるものではなく、棟瓦積み+重箱積みから乱積みへの流れを読み取れる程度である。

石室の構築に利用された石材は、大半が堆積岩の泥岩ホルンフェルス、砂岩ホルンフェルス、礫岩ホルンフェルス、角礫岩ホルンフェルスである。

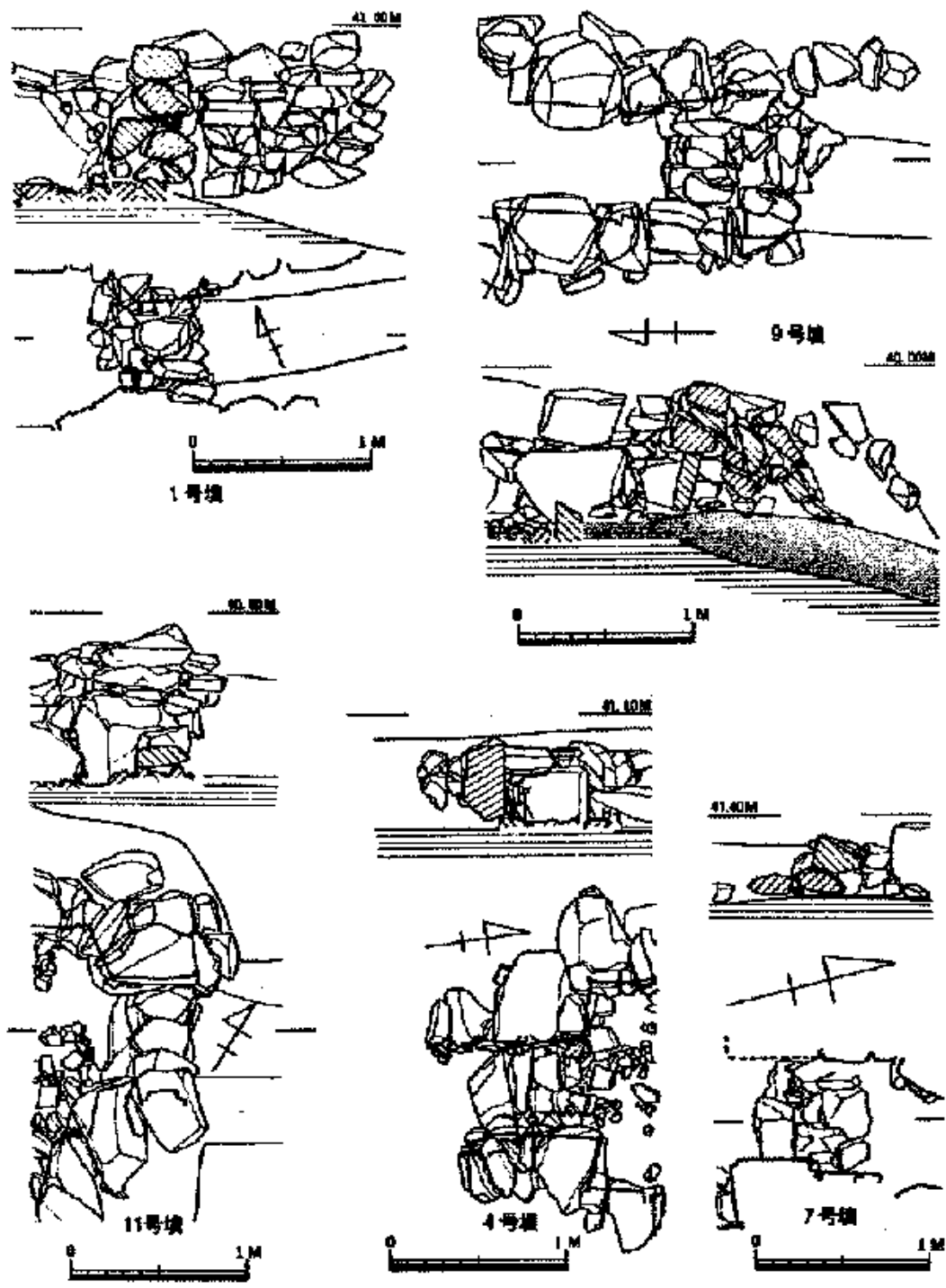
5. 閉塞施設

閉塞石が残っていたのは1・4・7・9・11・13・14・17・18・20号墳の10基である。玄室玄門の袖石間で閉塞を行っているのは1・11・18・20号墳の4基で、他の古墳は玄門から墓道へ寄ったところでの閉塞となっており、石室の平面形では区別のできなかつた換道部は閉塞位置により明らかにすることができる。4・9・14・17号墳は最下段に板状割石を立てている。同古墳群での閉塞は塊状割石を利用して、乱積みを行い、墓道側の石積みに控えが見られる。古墳間での閉塞施設には顕著な差は見受けられない。

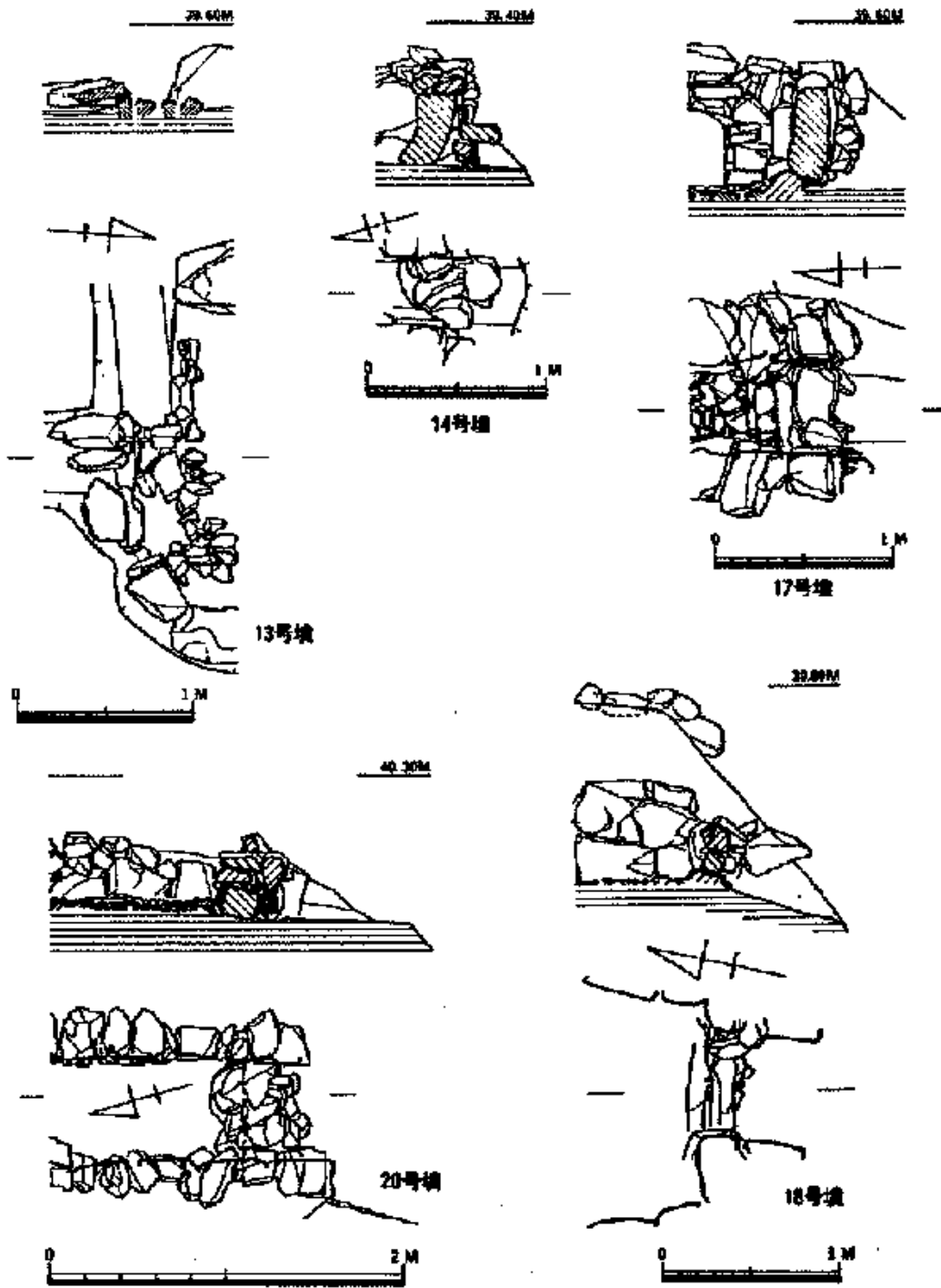
6. 出土遺物

盗掘等による著しい破壊を受けながらも同古墳群の性格づけに重要な遺物もあり、比較的豊富な資料を得ることができた。

大半の石室が擾乱を受けている中で、5・6号墳出土遺物はよく残っていたものと言える。5号墳玄室の左袖石に貼り付くようにして鉄釘1と鉄錐3、さらに側壁際から須恵器壺と土師器碗が出土した。



第4図 古墳主体部の閉塞図1 (1/40)



第5図 古墳主体部の開断面図2 (1/40)

小形の鉄錠は散石の間に落ち込んでいた。大形の鉄錠と鉄鉋は重ねるように置かれていた。

6号墳前室の、中程の主軸から左寄りの敷石上から鉄鉋・鉄錠・鉄斧・鉄鎌が出土した。石室主軸と平行するようにして鉄鉋と鉄錠は並べ置かれていた。

耳環・鉄鎌等の金属器は石室内部から出土するが床面の攪乱により原位置を留めるものは僅かである。土器は墳丘が遺存しておらず、出土位置は墓道が主体となっている。ここでは出土遺物の主なものを取り上げる。

1) 鍛冶工具

鉄鉋

5・6号墳から1点ずつ出土した。5号墳の遺物は握り部の端部を一部欠損するが全長47cmの完形品である。結合部中心からはさみ部先端まで14.6cmを測り、はさみ部の先端から直線的で身の最大幅1.3cmとなる。はさみ部がかみ合うように結合部で曲げを入れており、握り部の中途中でねじりが加えられている。横断面は全て長方形となる。結合部は円柱状の鉄が軸となって固定される。鉄身の径は約6ミリと推定できる。

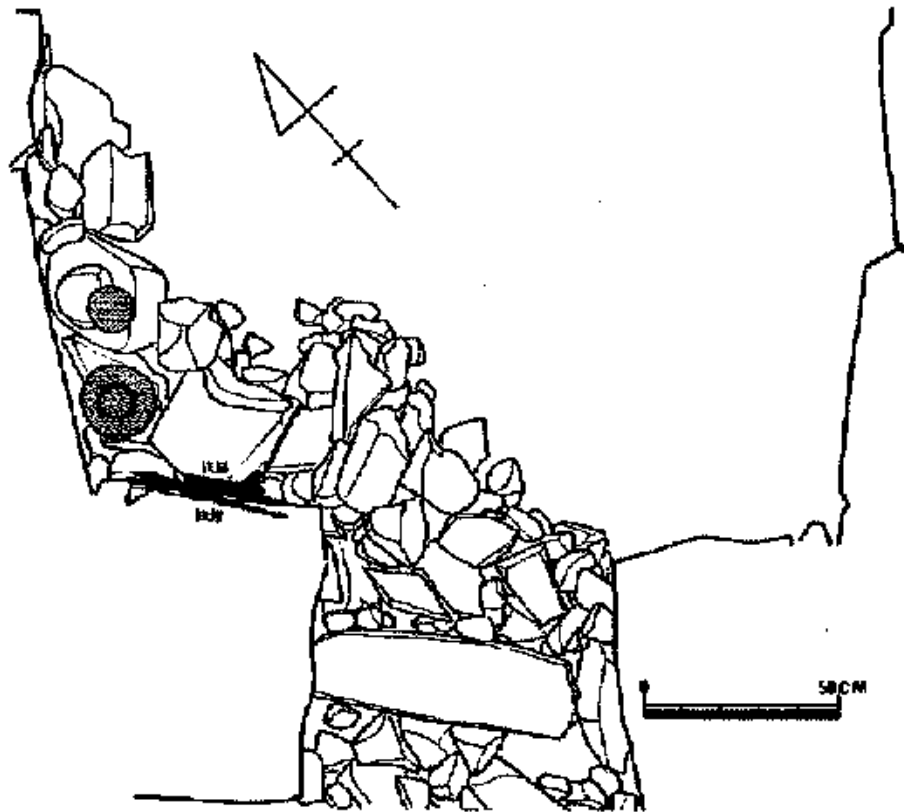
6号墳出土例は握り部の一部を欠損する。現存長24.7cmを測るが、復元長は36cmほどとなる。結合部中心からはさみ部先端まで10.9cm、はさみ面の最大幅1.3cmで、端部は直線的となる。はさみ合わせのための曲げは結合部から先端寄りで行われている。結合は円柱状で固定される。鉄径は約5ミリと推定される。身の横断面は長方形となる。鉄鉋はこれまで50点近くの出土があるが、全長47cmは最大の部類に属するものの、40cmを越す例は数例ほど確認されており、片手で使用するには重い。6号墳例はその大きさから最も出土例の多い類であり、片手ではさみが可能である。5号墳には大形の鉄鉋が出土しており、2古墳での鉄鉋とのセット関係は鍛冶の工程ないしは対象物の違いを表すものであろうか。

鉄錠

5号墳から3点、6号墳から1点出土している。5号墳の大形鉄錠は完形品で、全長21.4cm、最大幅6.8cm、最大厚5.8cmを測る。身の横断面は隅丸長方形となる。身の中心から頭部よりに柄部の穿孔があり、平面観は長台形となる。孔の長さ4.0cm、幅は1.4~1.7cmである。重量は保存処理後で3650gを測る。身の上下端とも敲打による変形が見られ、先端側の敲打面は丸い。頭部側の変形は小さな凹凸が見られるが、どのような使用によるかは不明である。

小形品の鉄錠(94)は全長11.6cm、身の最大幅2.3cmで柄孔部が広い。厚みは最大2.0cmを測る。柄孔は平面観が長方形で、長さ2.1cm、幅0.7cmとなる。重さは保存処理後で213gである。身の横断面は方形状となり角が弱い丸みをもつ。身の下端は敲打による小さな影らみが認められる。身の上端は平坦化するが、小さな影らみが認められる。

95の鉄錠は小形のもので、全長9.7cm、最大幅2.3cm、最大厚1.7cmを測る。柄孔の平面観は長方形で、長さ2.05cm、幅0.75cmとなる。重量は保存処理後で157gである。身の上下端とも敲打による変



第6図 5号墳後室遺物出土状況 (1/20)

形が見られる。138の鉄鏝は端部を折損する。全長12.2 cm、最大幅2.5 cm、最大厚2.3 cmを測る。柄孔の平面図は長方形で、長さ1.5 cm、幅0.7 cmとなる。重量は保存処理後で234 gである。身の上下端とも敲打による変形が見られる。

両古墳からは鉄鏝は出土しておらず、古墳時代出土例の少なさからすると、石製のもので充分機能していたものとされよう。なお、鍛冶具以外には鉄滓等の鉄器生産にかかわる遺物の出土はないが、本古墳群の盟主的位を占める5・6号墳からの出土は、造藤集団が宗像盆地南部の朝町谷において鉄器生産にたずさわっていたことを証明しうる。本古墳群の北側に所在する浦谷古墳群H-4号墳出土の鉄滓や朝町百田B-1号墳出土鉄滓、A-1号墳前面出土鉄滓、さらにB区の埋納鉄滓の例、あるいは浦谷D群中の須恵器窯跡、朝町木山遺跡の須恵器窯の所在から、6~7世紀における宗像地域の鉄器生産の拠点をこの谷あいの集落が担っていたといえる。



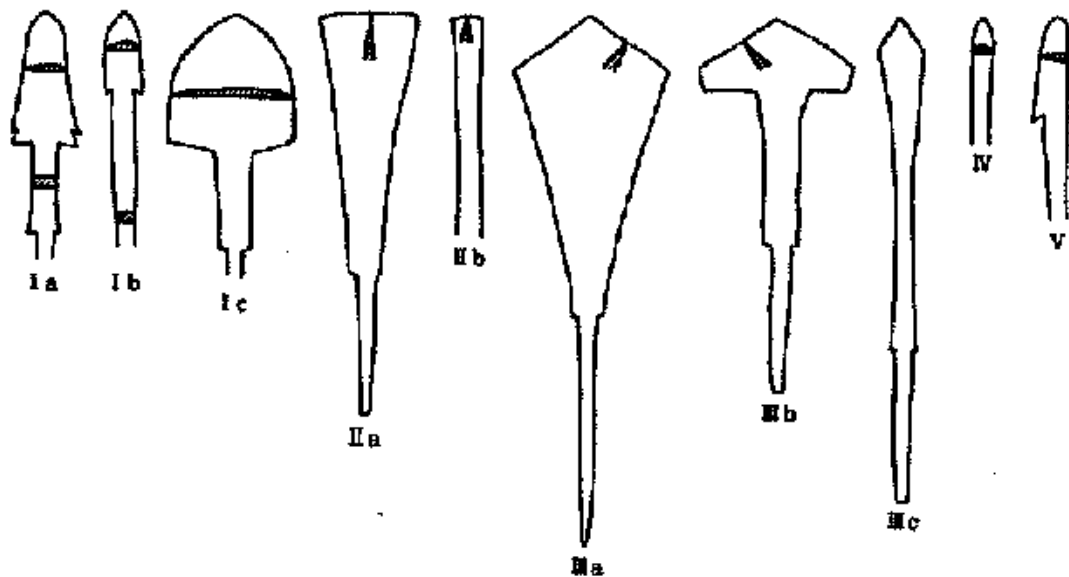
第7図 6号墳前室遺物出土状況 (1/10)

2) 武器

鉄 鏃

出土鉄器の中で最も多く、各種形態を備えている。身の平面形により5分類し、胴部形態を含めて10タイプに分けた。胴部については別表のとおりである。鉄鏃を出土する古墳は、1・5・6・15号墳の4基に覆られており、石室平面形でいう1~3類の古墳に相当する。Ⅱb類の鏃は6世紀中頃になって出現するタイプのもとのされるほか、Ⅰa類が1号墳の時期まで残ることがわかった。

須恵器 本古墳群出土の土器は98点を図化することができた。各古墳からの出土量の多い杯・高杯について分類を行い、検討を加えたい。



第8図 古墳出土鉄鏃の分類 (1/2)

3) 須恵器

杯

杯蓋1類 口径12.2~12.8cm、器高4.2~4.8cm、口縁部と天井部の境は不明、口縁部は内湾して端部は丸い。天井部は回転ヘラ削り。

杯蓋2類 口径12.6cm、器高3.4cm、天井部が平坦化する。天井部は回転ヘラ削り。

杯蓋3類 口径11.2~12.1cm、器高3.8~4.5cm、天井部は回転ヘラ削りするものの、範囲は狭くなる。

杯蓋4類 口径11.1cm、器高3.1cm、器壁が肉厚となり、3類までとは異なる。天井部の回転ヘラ削りは体部との境に施し、中心部はナデの見られるものがある。

杯蓋5類 口径10.5~11.0cm、器高3.4~3.9cm、器形はさらに縮小し、天井部は体部との境に回転ヘラ削りを施している。

杯身1類 口径12.6cm、器高4.0cm、受部は外上方へ引き出され、立ち上がりは外反気味に内傾して

- 杯身2類 口径12.0cm、器高3.3cm。器形、技法とも1類と同じである。
- 杯身3類 口径10.8~11.4cm。器高4.2~4.5cm。口径の縮小化に比べ、体部が深い。受部の立ち上がりは直線的で口端部は丸い。底部は回転ヘラ削り。
- 杯身4類 口径10.6cm、器高3.9cm。底部が平坦化するが、立ち上がりは高く、口端部は丸い。底部は回転ヘラ削りである。
- 杯身5類 口径9.5~10.4cm。器高4.4~5.0cm。口径に比べ体部が深い。立ち上がりは低くなり、口端部は丸い。底部は回転ヘラ削り。
- 杯身6類 口径10cm。器高4.2cm。器壁が肉厚となり、底部は平坦化する。受部、立ち上がりとも短くなる。底部は回転ヘラ削り。
- 杯身7類 口径9.0~10cm。器高2.9~3.6cm。法量は縮小され、平坦化している。立ち上がりは外皮気味にのびて、口端部は尖り気味となる。底部は、体部との境にヘラ削りを施している。
- 杯身8類 口径9.6cm。器高2.6cm。扁平な器形となり、立ち上がりが短く、口端部は尖る。底部は手持ちのヘラ削りとなる。
- 杯身9類 口径8.4cm。器高3.9cm。受け部をつくらぬもので、体部に3条の沈線を運らす。底部は丸みを有する。

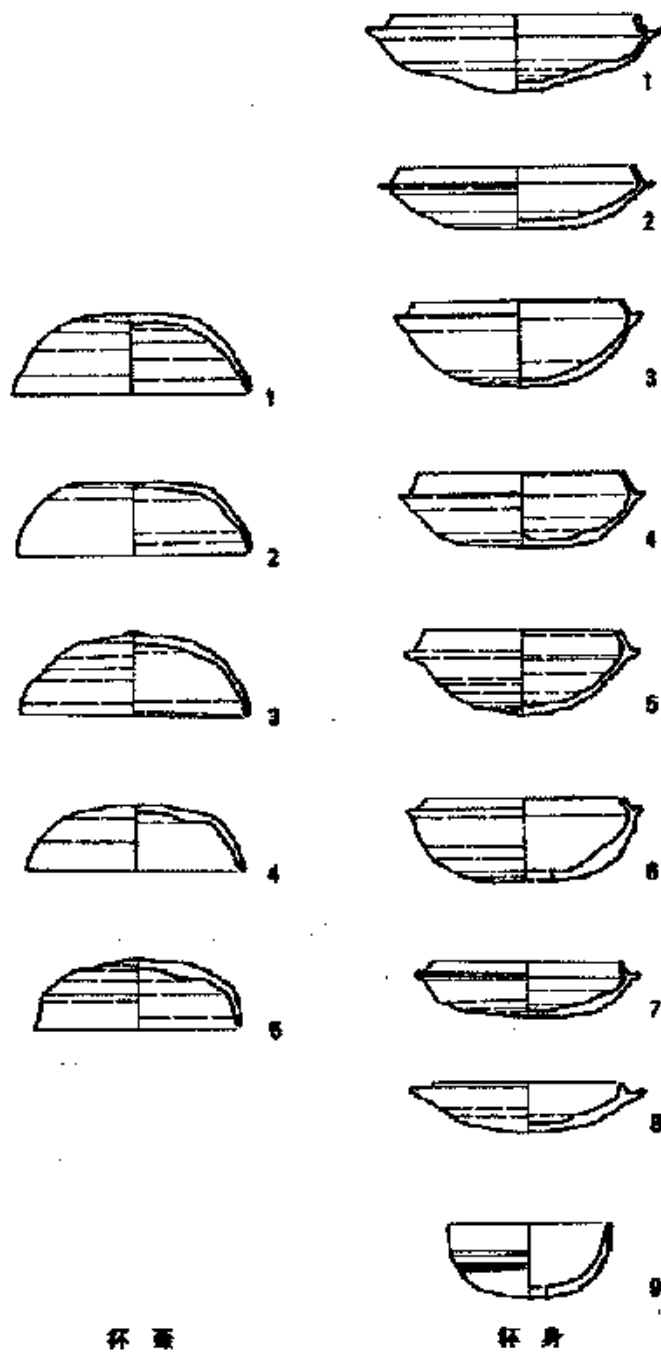
以上の杯分類により杯身1・2類は大野城市野添9号窯、新吉富村山田3号窯出土遺物に法量が近いが、受部から立ち上がりのつくりは山田窯に似ており、ほぼ小田富士雄氏編年のⅢB期に相当する。杯身7・9類は大野城市大浦窯灰原b類に、杯身8・9類は牛頸平田E-1号窯に近く、杯身8類は蓋受けのない身の蓋になる可能性があり、杯身9類より佚出しよう。杯身1~2類、杯身3~4類は、法量の小形化が見られるものの調整技法や口縁部~受部のつくりは古式の特徴を残しており、ⅢB末~Ⅳ期のものといえよう。杯身3~5類、杯身5~7類はⅣ期の中でおさえることができよう。

高杯

図示したものは13点で、全て無蓋高杯である。1類の102は長脚2段透孔をもち、野添9号窯の資料に類似する。2類の43~46・103・104例は透孔を持たず、脚中に沈線を運らすものもないものがあり、法量は同じである。この種のもは大浦窯灰原や天祖寺山Ⅱ区1号窯に見出される。3類の47~49の高杯は法量が縮小化する。4類の50・67・203は法量が最小となり、1類はⅢB期に2類はⅣ期、4類がⅤ期以降に並行する。

ヘラ記号

図化した杯98点の中で、ヘラ記号を有するものは11点あり、27以外は全て内面に施されている。奈良市稲元日機原窯跡では、1号窯の杯にはほとんどヘラ記号を見出せず、ヘラ記号が増え出すのはⅢB期のものである。周辺古墳の出土杯ではⅢA期までのものはヘラ記号は僅かであるが、ⅢB期以降に顕著となり、それも杯内面に施すことが多い。ただ稲元日機原窯のものは杯外面のヘラ記号が多く、記号を施す部位と生産・消費地との関係については窯資料の増加を待ちたい。



杯蓋

杯身

第9圖 出土須惠器杯蓋・杯身の分類 (1/4)

7. 古墳群の形成について

古墳の立地、主体部構造、出土遺物から遺跡の年代、性格づけ等を行いたい。

1) 築造年代

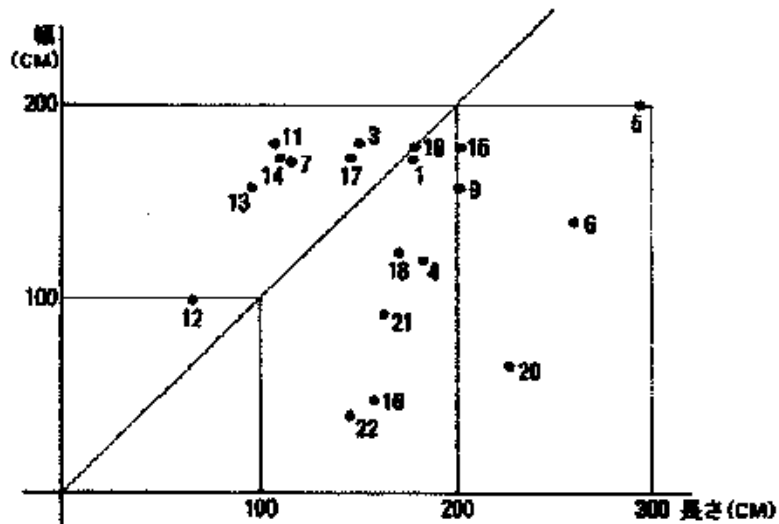
出土遺物の検討から、表採の杯身(231)の時期を古墳群の始まりと考え、6世紀の第3四半期とし、群中で最後の築造と推定する小形の石室の築造は、7世紀の中頃から第3四半期にかかる可能性がある。

各古墳の築造年代は、石室平面形および遺物の検討から5・6号墳の築造が6世紀第3四半期に、9・15号墳が6世紀第4四半期、1・3・17・19号墳の築造を6世紀末から7世紀の第1四半期の前半にかけてとし、2・4・18・21号墳を7世紀第1四半世紀の後半から第2四半期に、7・11~14号墳の築造を7世紀第2四半期中に考え、小形の石室となる16・20・22号墳の築造を7世紀中頃から第3四半期に考えておきたい。

2) 群構成について

22基の古墳は、一定の墓域内で造墓主体が任意に占地できたのではなく、果団内の造墓規制のもとに古墳づくりがおこなわれたものと推測する。22基の古墳は、一系列的に営まれたのではなく、複数の単位群が存在することが、占地等によりとらえることができ、一定の群域を持つことがわかる。群単位数は時期がくだるごとに増加しており、累代墓形成が等質でないことを物語っている。ここでは群構成を次のように推定した。

古墳群は6世紀後半に始まる。優位を占める古墳は、丘陵稜線上の占地、複室横穴式石室、南向きの石室開口の3点で認めることができる。複室構造の横穴式石室を内部主体とする5号墳の築造に始まり、引き続き築造された6号墳との2単位の墓として成立した。この2単位は次の9・15号墳の築造へ引き継がれる。さらに、2単位の系譜につながる17・19号墳の築造期に北側斜面に1号墳が築かれて3単位群となる。この1号墳は南斜面に占地する5号墳の系譜につながっており、同一墓域を飛び出すことができないで、域内で新たに独立した単位墓としてとらえたい。17号墳の次の18号墳の築造期に6号墳の系譜から独立した2号墳がつくられる。さらに、7世紀第2四期には6単位群の成立をみる。7世紀後半の4基の単葬墓の造営をもって古墳群は終焉を



第10図 古墳主体部玄室(後室)の法量分布

むかえる。6世紀後半に複室の横穴式石室に始まる古墳は7世紀始めには単室構造へと変化する。7世紀前半には主体部空間の小形化と造墓主体の分散がみられる。7世紀後半には個人墓の単葬により古墳群は終焉をむかえる。

畿内においては7世紀初頭をもって造墓活動を終える古墳群が多くみられ、この原因を推古朝に考えられている「推古朝喪葬令」ともいえる造墓規制によるものとされるが、北部九州の宗像地域では7世紀前半にいたっても造墓活動はおとろえない。このことは「推古朝喪葬令」が畿内を中心とした範囲にとどまり、当該地域は規制外にあったといえよう。7世紀後半の単葬墓は「大化禊葬令」に伴う造墓規制によるものと考えられ、この時期には畿外地域へも個人単位での規制がおよんでいたことを物語っていよう。

参考文献

1. 水野 正幹 1970 群集墳と古墳の終焉 古代の日本5 近畿
2. 藤部伊久男 1978 終末期群集墳の様相 橿原考古学研究所論集第9集
3. 白石太一郎 1982 畿内における古墳の終末 国立歴史民俗博物館研究報告第1巻

表1 朝町山ノ口遺跡古墳の規模一覧

遺構番号	立地	墳丘規模 (墳元最大径)	墓		墳		主体部		開口方向		床面積高		玄室(後室)面積	溝	高さ		備考
			長さ	幅	最大幅	最深長	主体部	開口方向	床面積高	玄室(後室)面積	長さ	最大幅			最深長		
1号墳	丘陵北斜面	8	5.8	2.9	2.9	1.4	単室横穴式石室	東	38.50	3.04㎡	5.5	1.5	0.8				
2号墳	丘陵南斜面	6	3.8	3.0	3.0	0.3	単室横穴式石室	南	41.20	2.66㎡	10.0	1.0	0.9				
3号墳	丘陵東斜面	7	4.6	2.8	2.8	0.5	単室横穴式石室	北東	40.60	2.52㎡	2.9	1.2	0.6				
4号墳	丘陵南斜面	4	3.5	2.7	2.7	0.5	単室横穴式石室	南	40.50	2.16㎡	3.2	0.9	0.4				
5号墳	丘陵南斜面	10	7.0	4.0	4.0	1.3	複室横穴式石室	南西	38.40	5.70㎡	12.6	1.5	1.1				
6号墳	丘陵南斜面	8	5.7	3.7	3.7	0.2	複室横穴式石室	南	41.20	3.64㎡	5.0	1.0	0.2				
7号墳	丘陵北斜面	5	3.6	3.0	3.0	0.5	単室横穴式石室	北	40.90	2.04㎡	1.8	0.9	0.2				
8号墳	丘陵南斜面	6	3.6	2.3	2.3	0.3	単室横穴式石室	南	40.60								
9号墳	丘陵南斜面	7	6.1	3.2	3.2	1.1	複室横穴式石室	南	38.80	3.15㎡							
10号墳	丘陵南斜面	4	2.7	2.0	2.0	0.3	単室横穴式石室	南	40.40		3.7	0.8	0.5				
11号墳	丘陵北斜面	8	2.6	3.3	3.3	0.9	単室横穴式石室	北東	38.80	2.94㎡	5.3	1.1	0.5				
12号墳	丘陵南斜面	4	2.0	1.5	1.5	0.6	単室横穴式石室	南	40.20	0.63㎡	2.1	0.7	0.3				
13号墳	丘陵南斜面	5	2.3	2.6	2.6	0.8	単室横穴式石室	南	38.10	2.16㎡				円形			
14号墳	丘陵南斜面	5	2.9	3.0	3.0	0.9	単室横穴式石室	南	38.60	1.87㎡							
15号墳	丘陵南斜面	6	6.0	2.8	2.8	2.0	複室横穴式石室	南	37.20	3.67㎡	5.0	1.4	1.1				
16号墳	丘陵南斜面	3	2.1	1.1	1.1	0.5	壘穴式石室	南	38.20	0.64㎡							
17号墳	丘陵南斜面	7	3.7	2.8	2.8	1.0	単室横穴式石室	南	38.50	2.55㎡				円形			
18号墳	丘陵南斜面	5	3.2	2.6	2.6	1.0	単室横穴式石室	南	38.50	1.98㎡							
19号墳	丘陵南斜面	7	4.0	4.0	4.0	1.3	複室?横穴式石室	南	36.90	3.24㎡							
20号墳	丘陵南斜面	4	2.8	1.5	1.5	0.7	無袖横穴式石室	南	39.50	1.47㎡							
21号墳	丘陵南斜面	4	2.8	2.1	2.1	0.6	単室横穴式石室	南	36.80	1.40㎡							
22号墳	丘陵南斜面	3	1.6	1.0	1.0	0.1	無袖横穴式石室	南	40.80	0.55㎡							

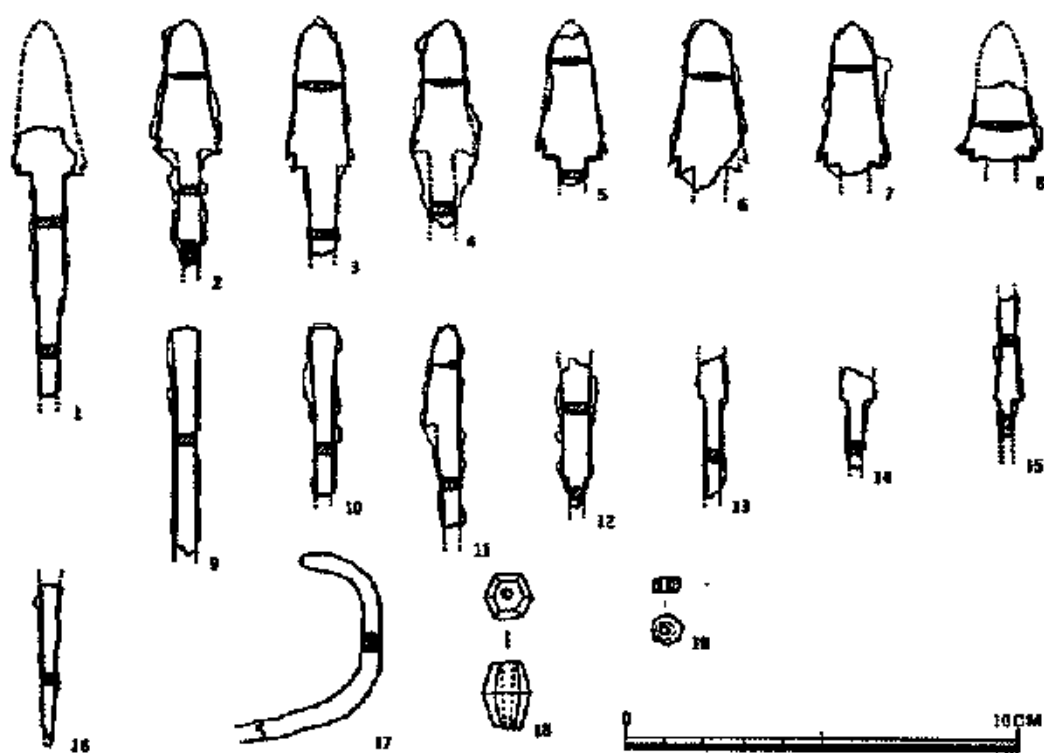
単位：m

單位：cm

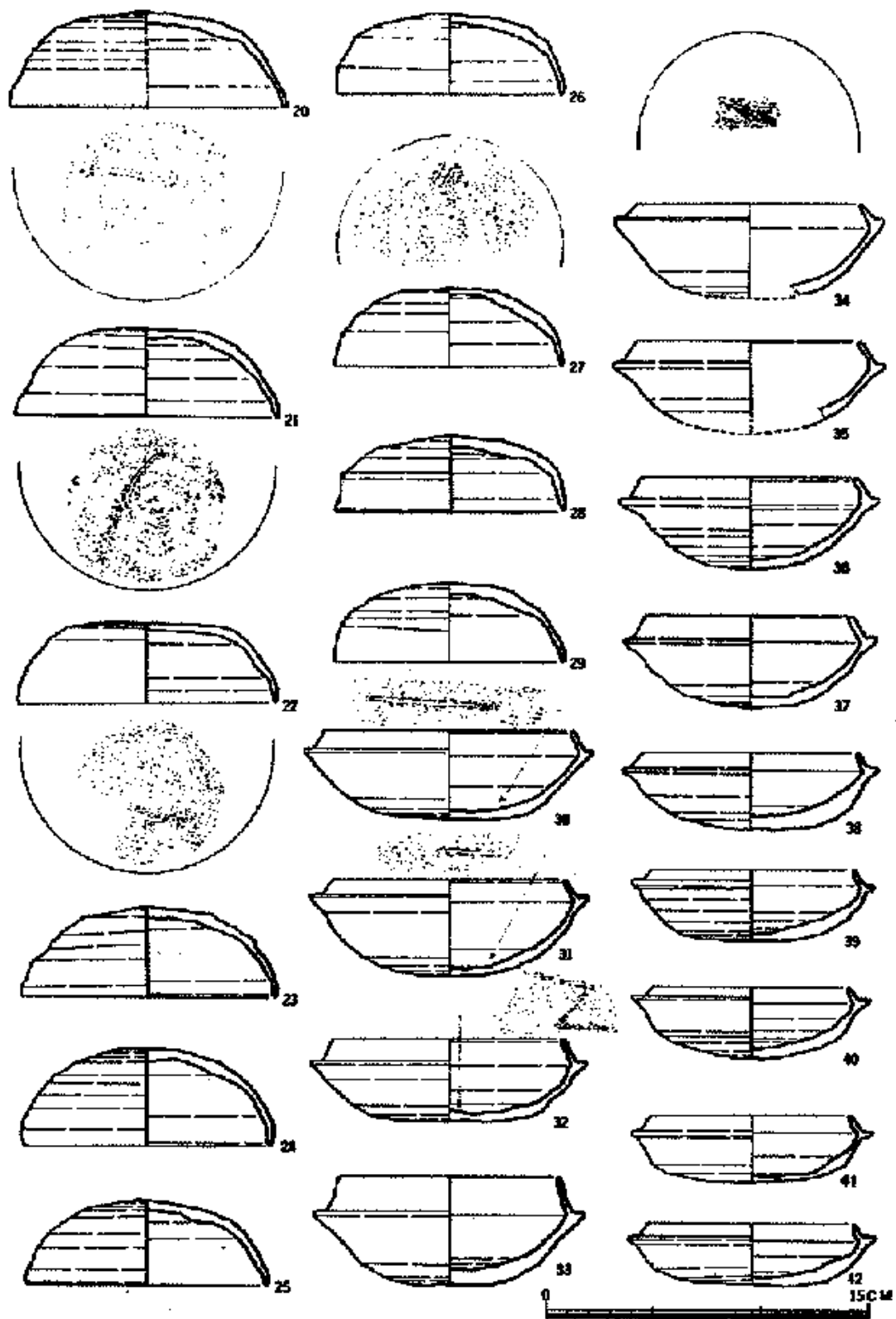
表 2 朝町山ノ口石室計測表

石室長 (貼石中心)	溝蓋長 (玄室長)		溝蓋幅 (玄室幅)		前蓋長		前蓋幅			玄室高	溝蓋一側石	玄室開口	備考			
	右	左	右	左	右	左	右	中央	前							
1号墳	492	456	191	185	172		168		72	86	91	72	53	203	130+α	
2号墳			(180)	(186)	(147)		(130)						(86)	181		溝蓋構造?
3号墳	362		156	144	198		157						53	157		
4号墳	260	270	187	178	120		117						52	216		
5号墳	(890)	(632)	284	303	192		217	193	(160)	(174)			72	330	135+α	
6号墳	(520)		(260)		(140)								(80)	(280)		
7号墳	284	(278)	(117)	(115)	183		172	157					57	136		
8号墳																
9号墳	458	483	211	198	180		168		108	122	112	108	68	227	103+α	
10号墳																
11号墳	178	180	115	101	176			182					58	184	80+α	
12号墳	(150)	(140)	88	64	105		92						47	80		
13号墳	149	(131)	96	(102)	157			172					(46)	121		
14号墳	222	234	110	108	179			164					43	115	100+α	
15号墳	402	404	197	205	180		178	175					53	215	200+α	
16号墳			(167)	(157)	44		57	41	102	102						
17号墳	802	824	147	145	169		176	171					54	177	110+α	
18号墳	230	230	156	173	123		137	118					57	169	90+α	
19号墳			(155)		179											
20号墳	225	251	224	260	67			60							60+α	
21号墳		236	162	165	98		100	77					45	159	50+α	
22号墳			(145)	(146)	(46)											

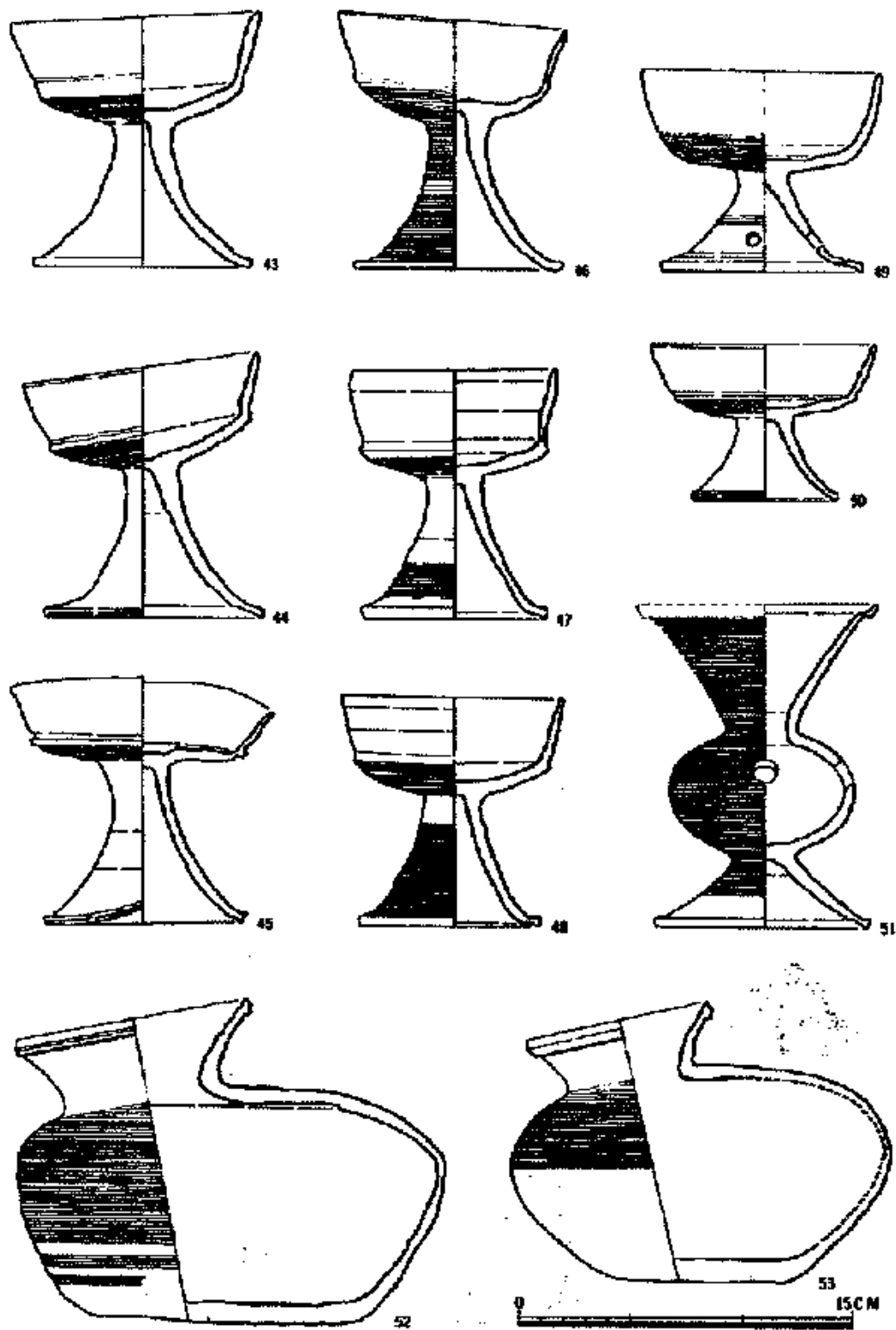
() 内は推定値



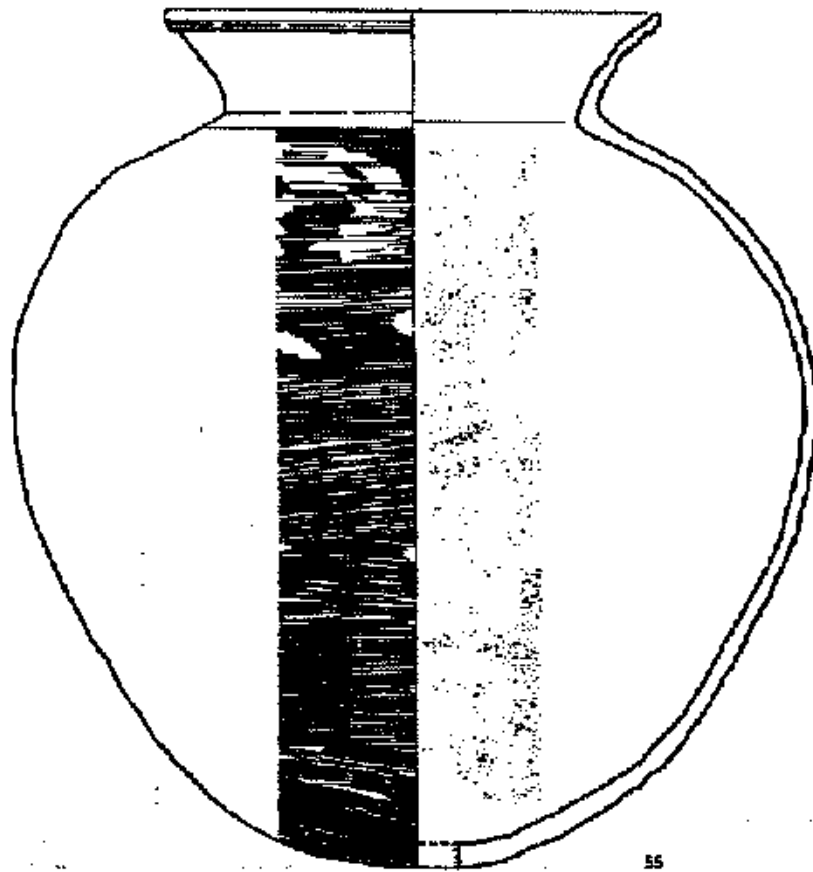
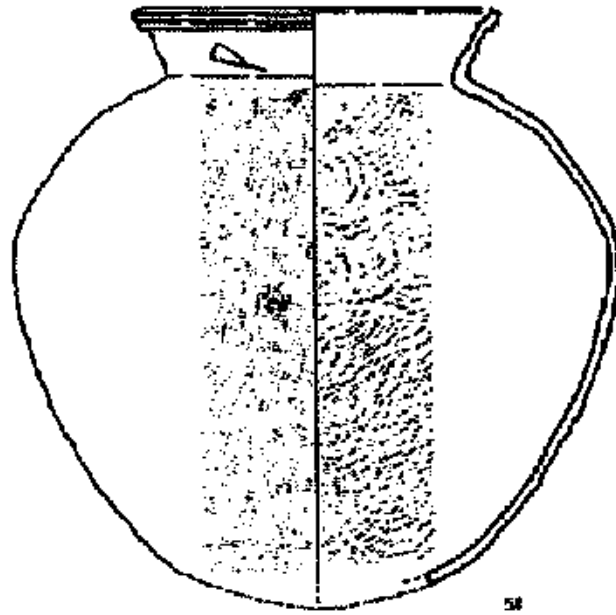
第11图 1号坑出土器物实例图1 (1/2)



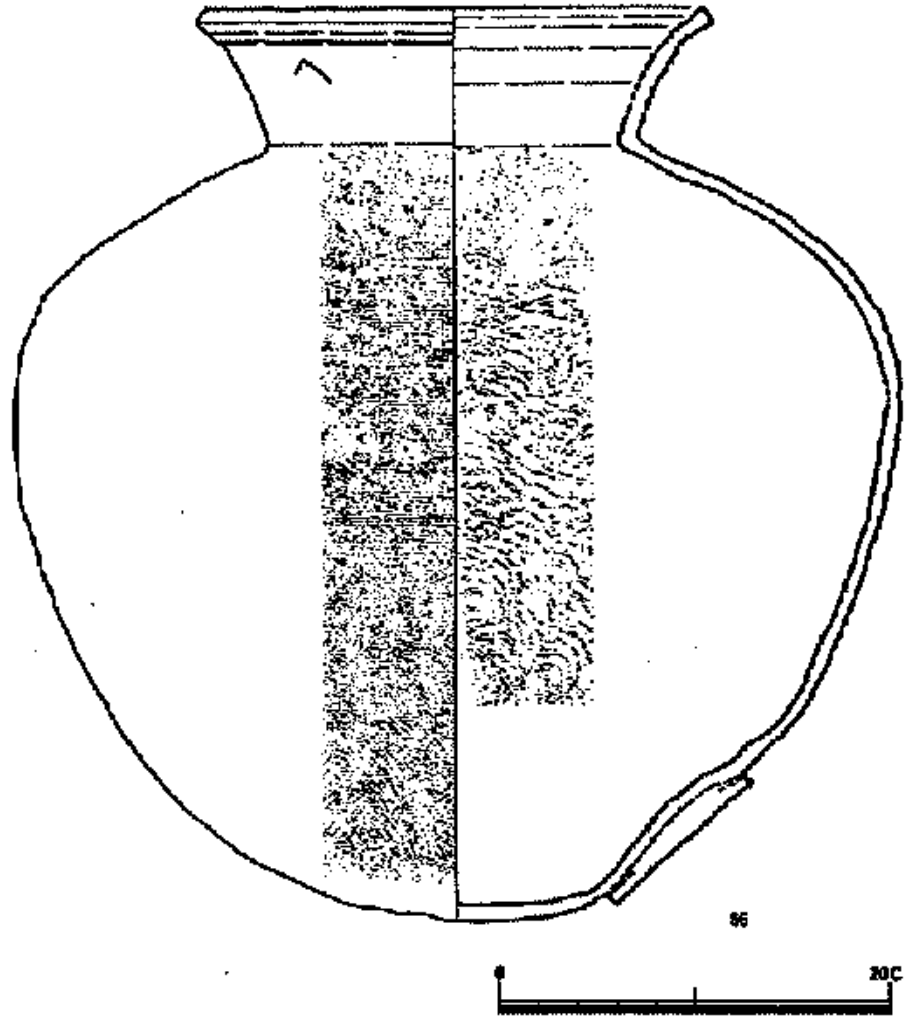
第12图 1号堆出土器物实测图2 (1/3)



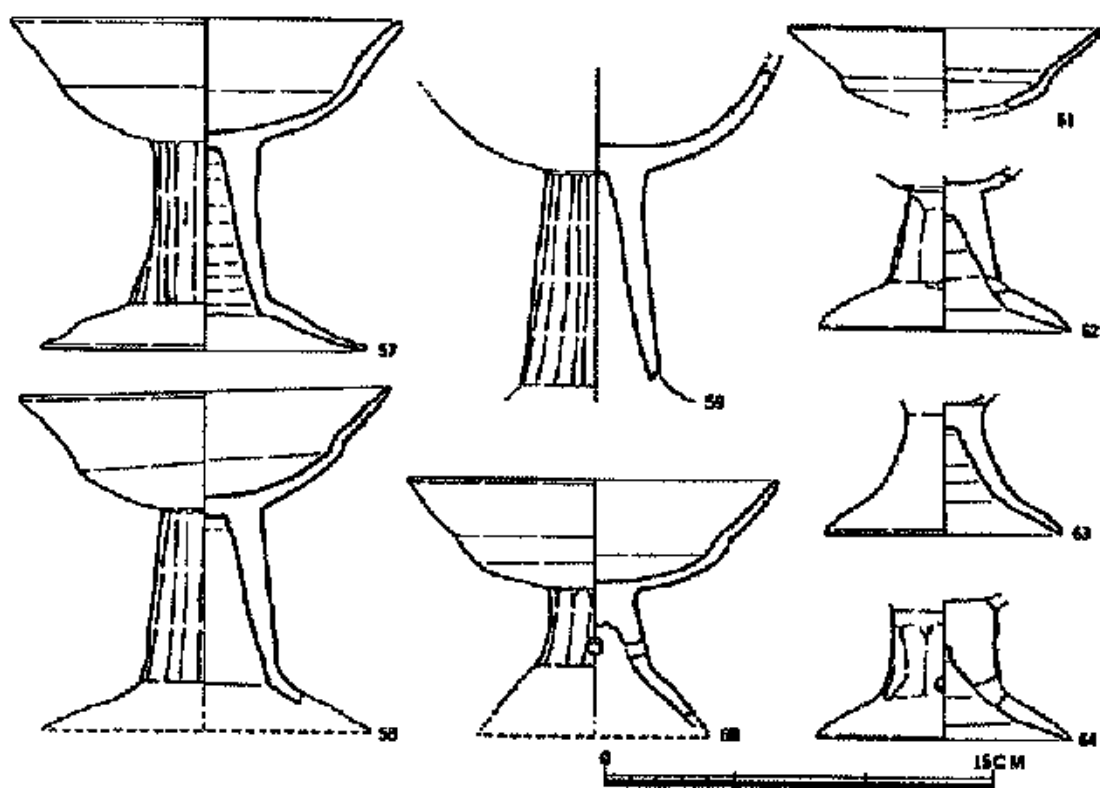
第13图 1号坑出土器物实测图3 (1/3)



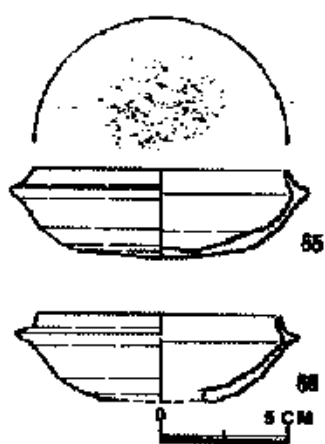
第14圖 1号墳出土遺物陶器圖4 (1/4)



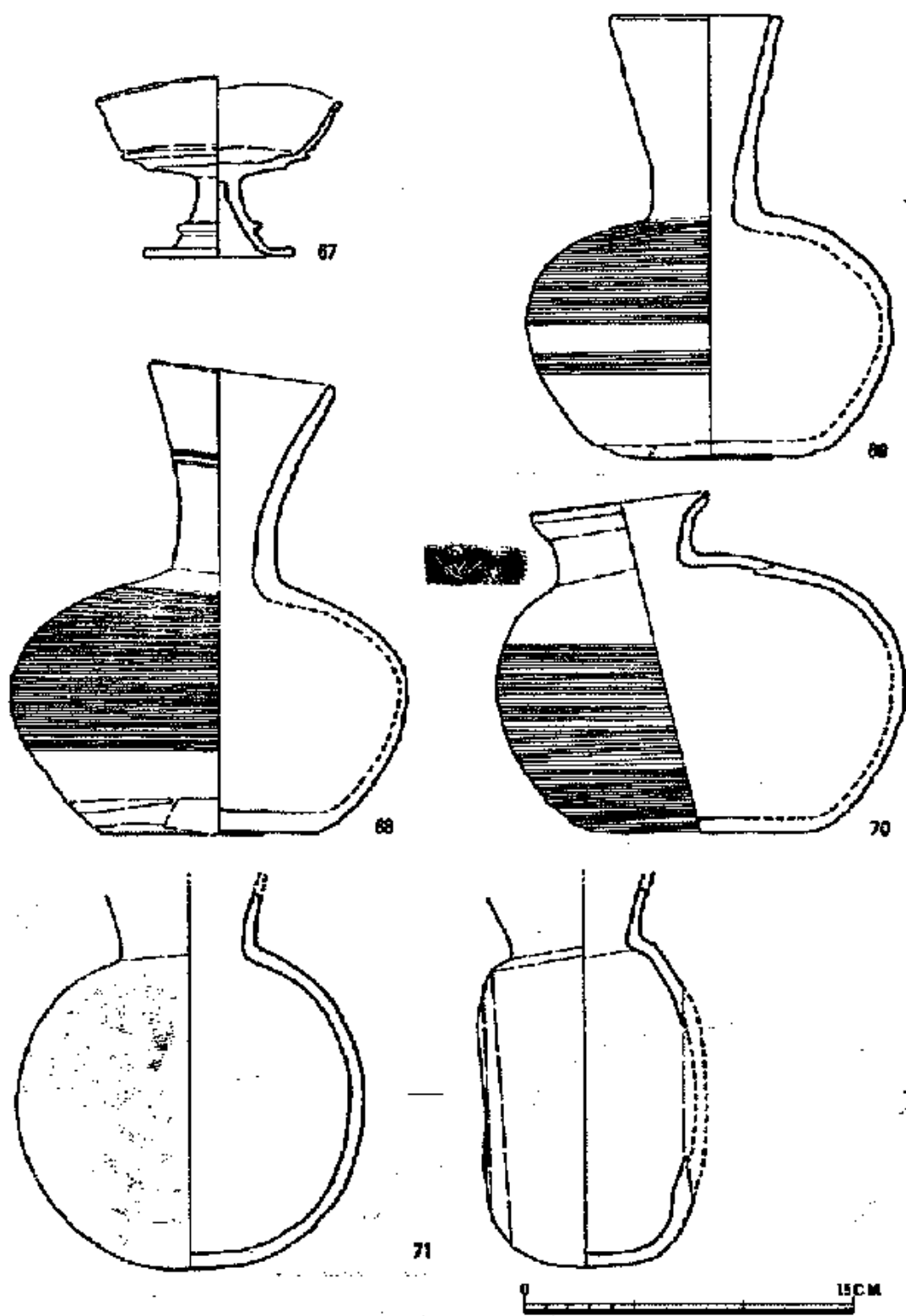
第15图 1号出土器物实测图6 (1/3)



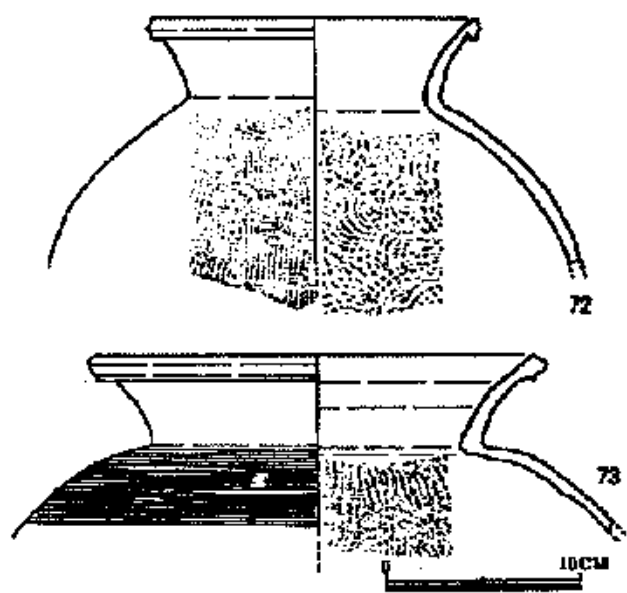
第16图 1号出土文物实测图 (1/3)



第17图 2号出土文物实测图 (1/3)



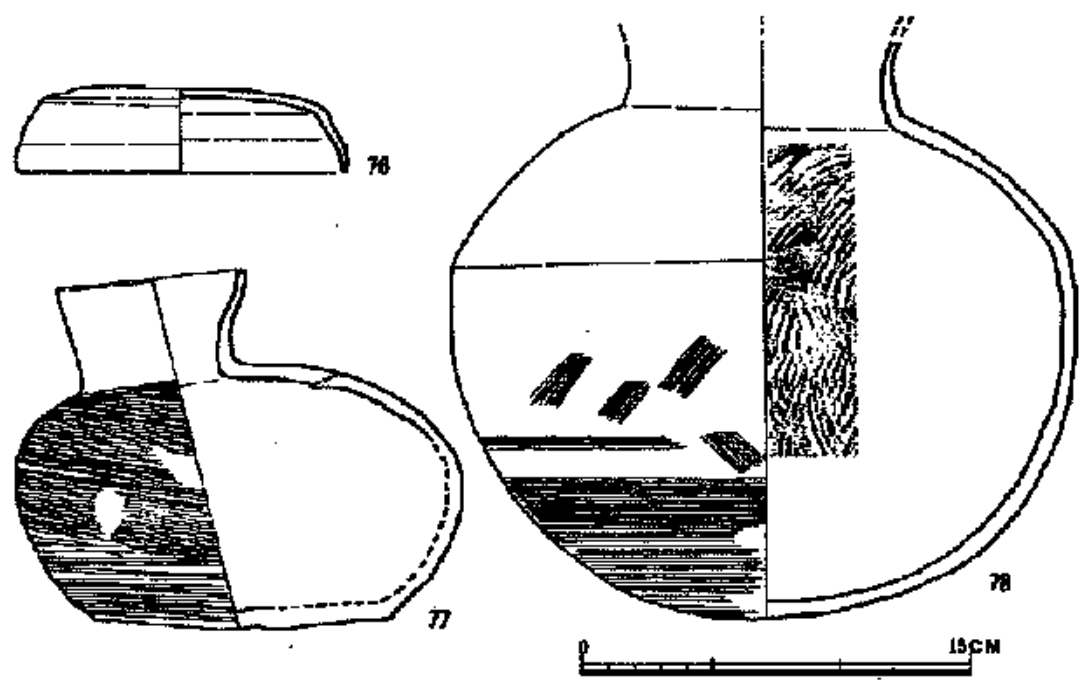
第18图 3号坑出土器物实测图1 (1/3)



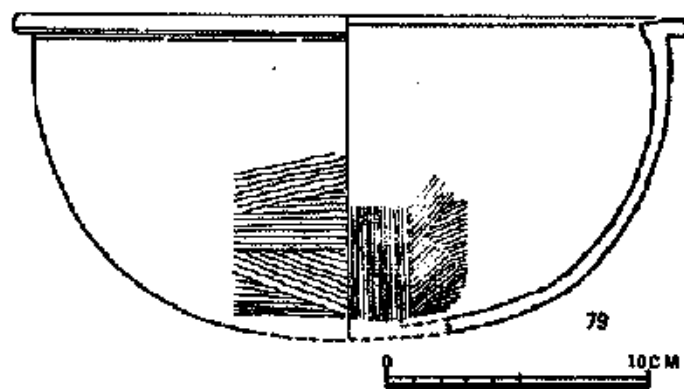
第19图 3号填出土遗物实测图2 (1/4)



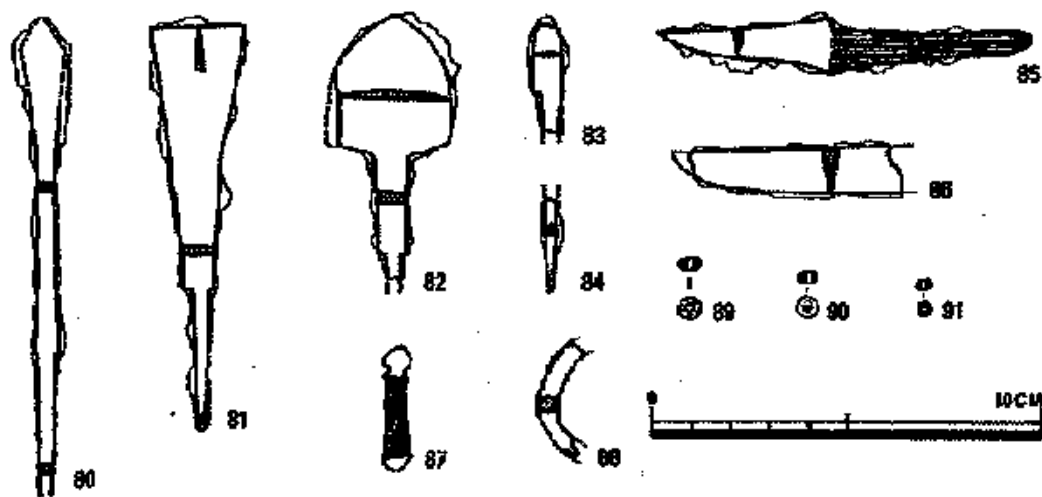
第20图 4号填出土遗物实测图1 (1/2)



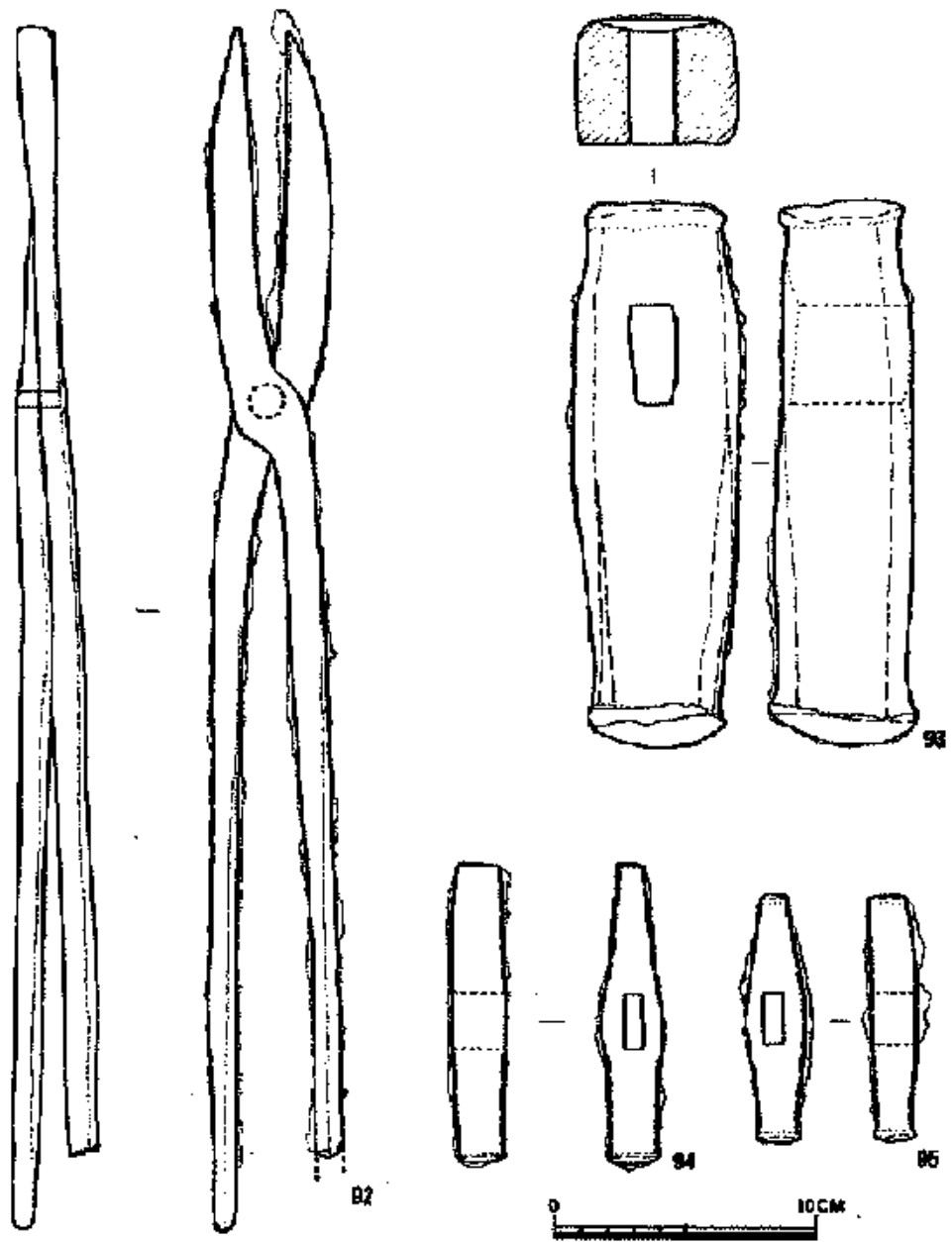
第21图 4号填出土遗物实测图2 (1/3)



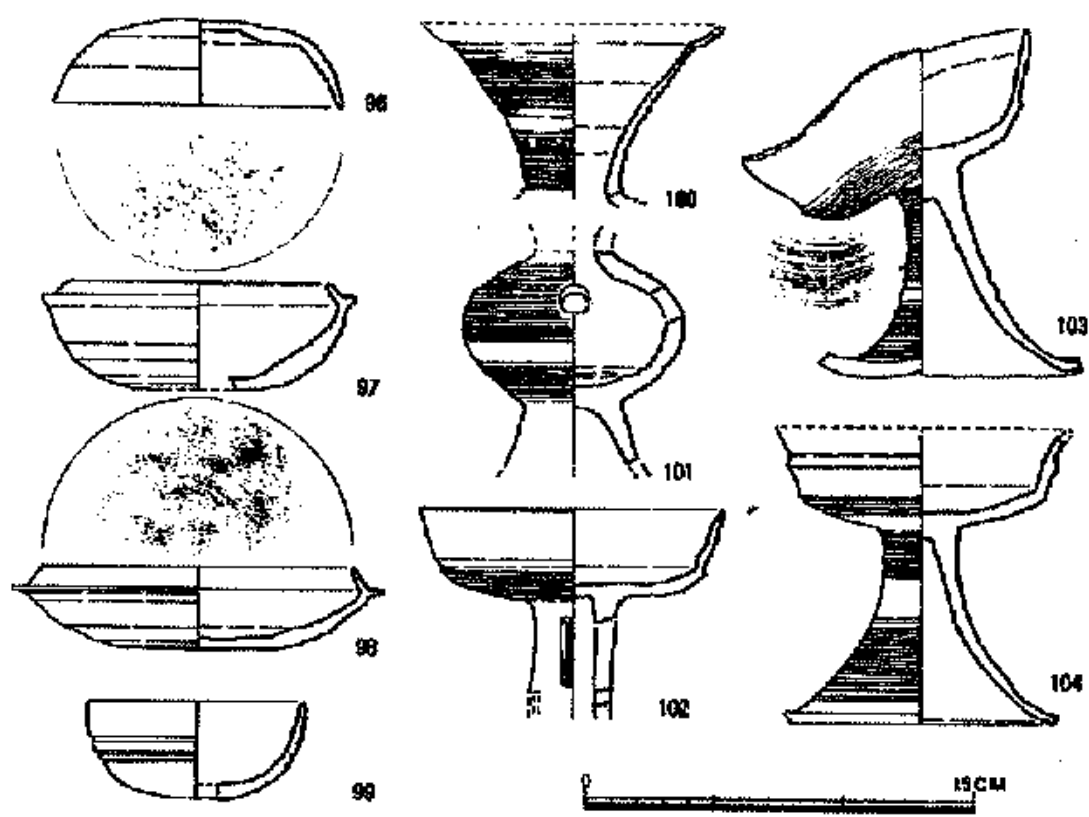
第22图 4号填出土遺物実測図3 (1/3)



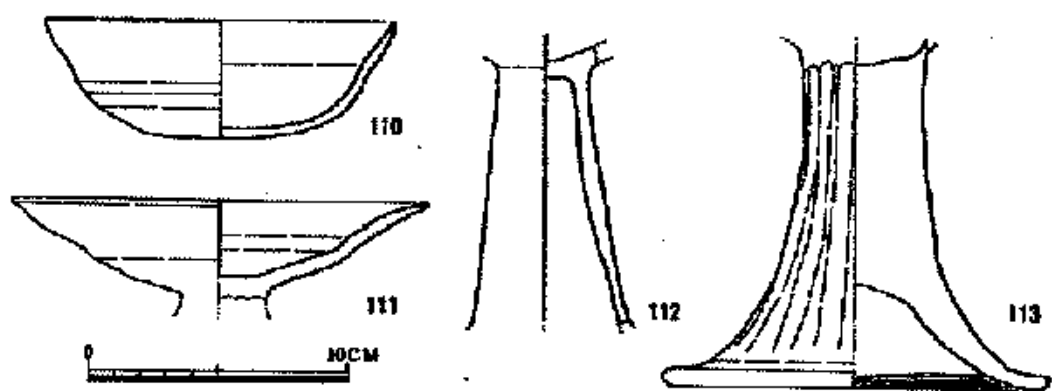
第23图 5号填出土遺物実測図1 (1/2)



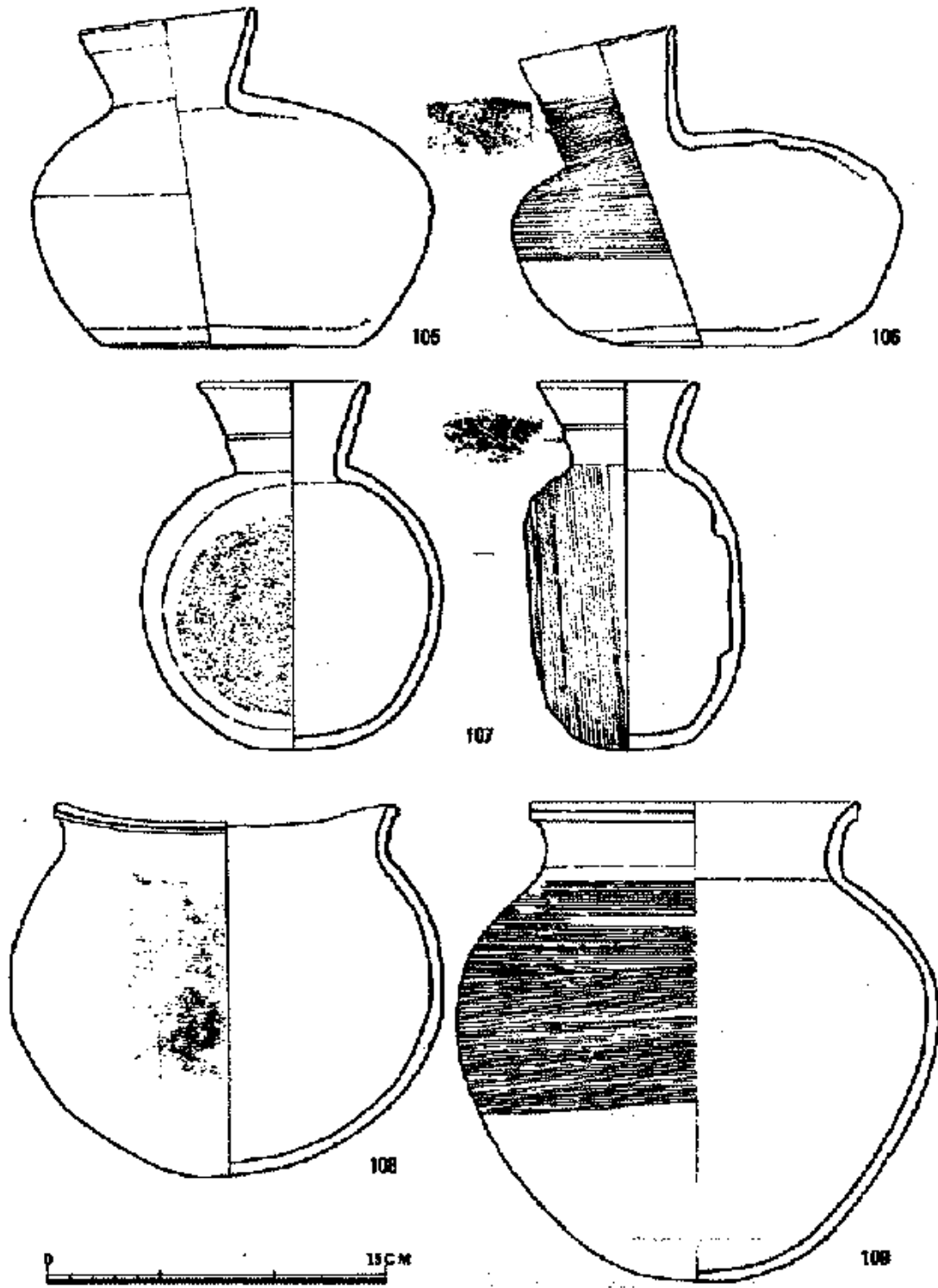
第24图 5号坑出土器物实测图2 (1/3)



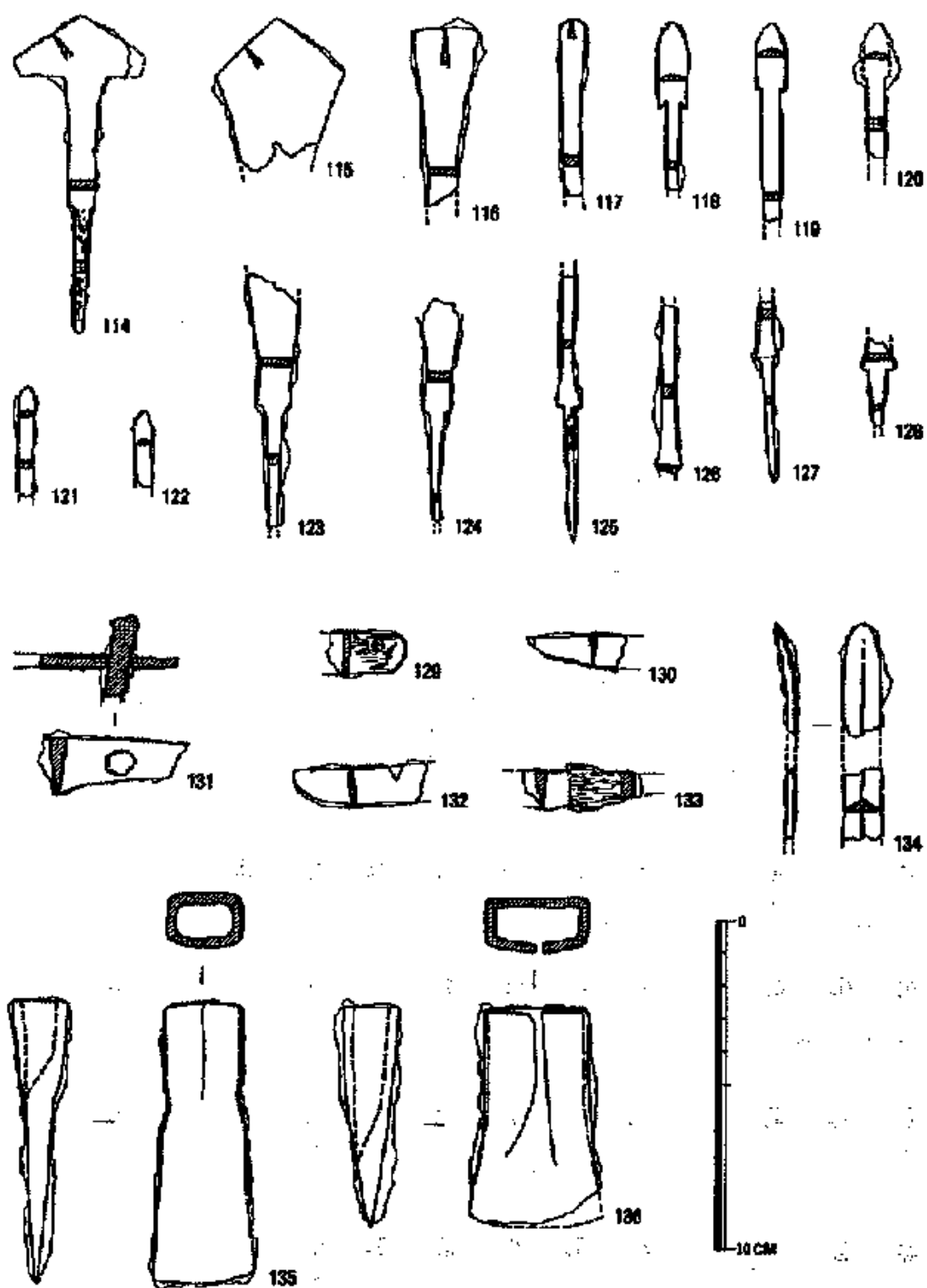
第25图 5号坑出土器物实测图3 (1/3)



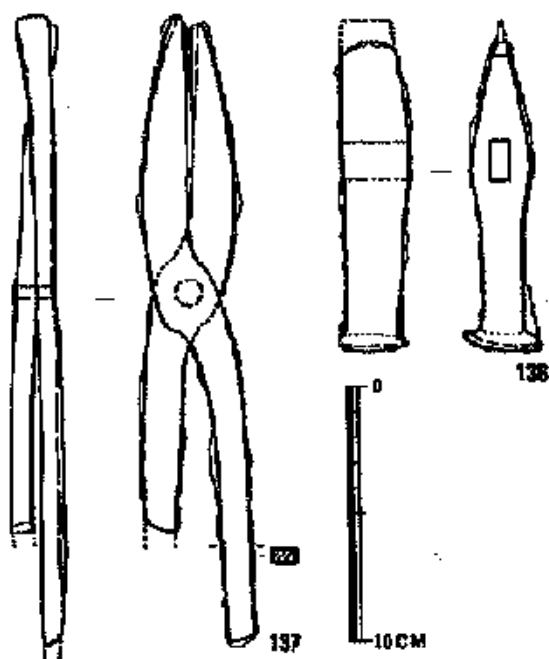
第26图 5号坑出土器物实测图4 (1/3)



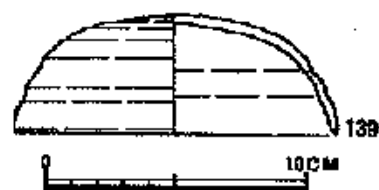
第27图 5号坑出土器物实测图5 (1/3)



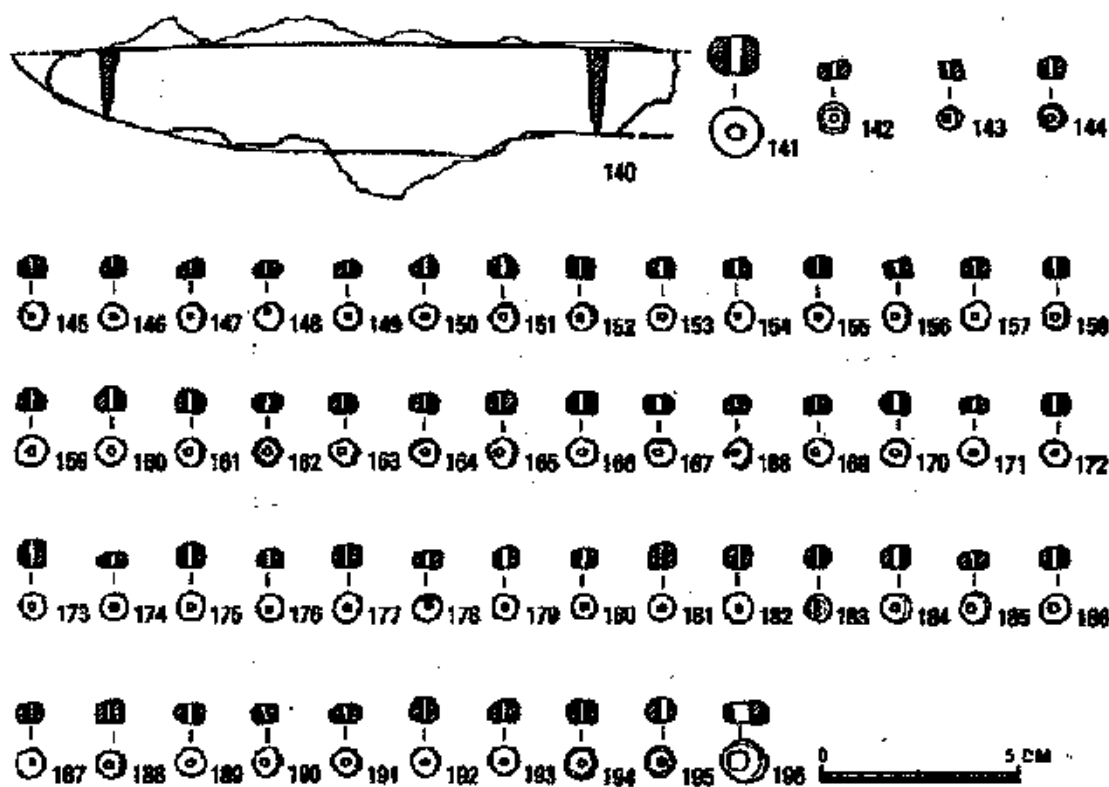
第28图 6号坑出土遗物实测图1 (1/2)



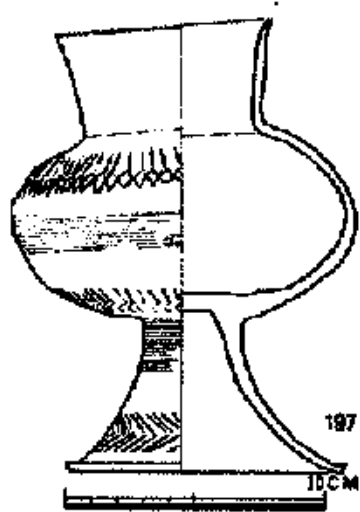
第29图 6号坑出土遗物实测图2 (1/3)



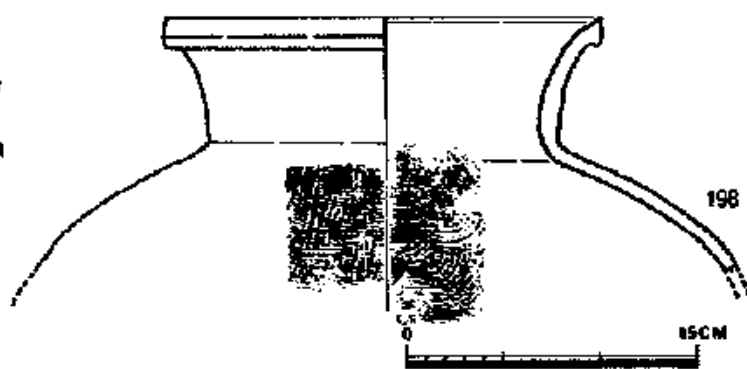
第30图 6号坑出土遗物实测图3 (1/3)



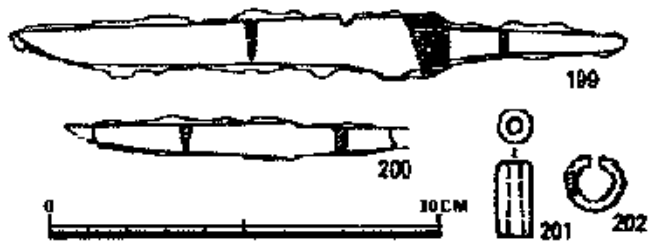
第31图 9号坑出土遗物实测图1 (1/2)



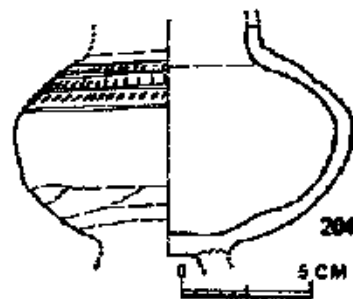
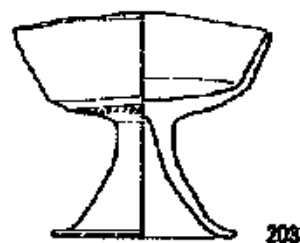
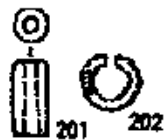
第32图 9号出土物实测图2 (1/3)



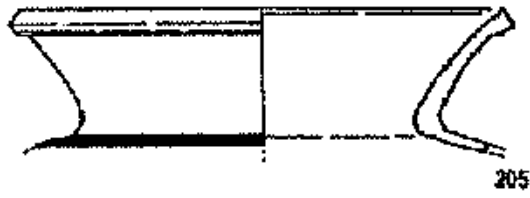
第33图 9号出土物实测图3 (1/4)



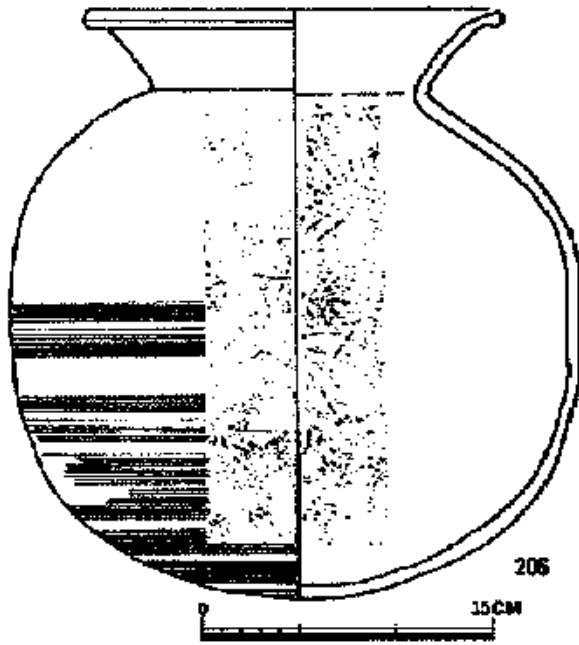
第34图 11号出土物实测图1 (1/2)



第35图 11号出土物实测图2 (1/3)

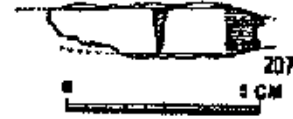


205



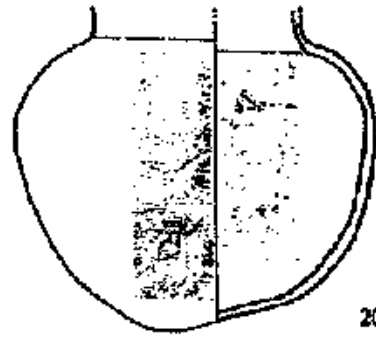
206

第36图 11号坑出土遗物实测图 3 (1/4)

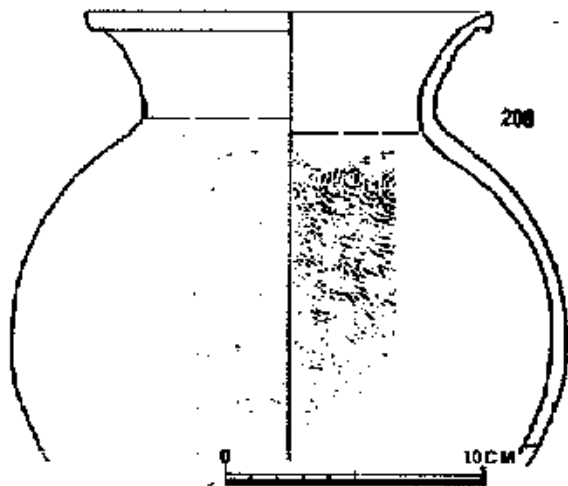


207

第37图 12号坑出土遗物实测图 (1/2)

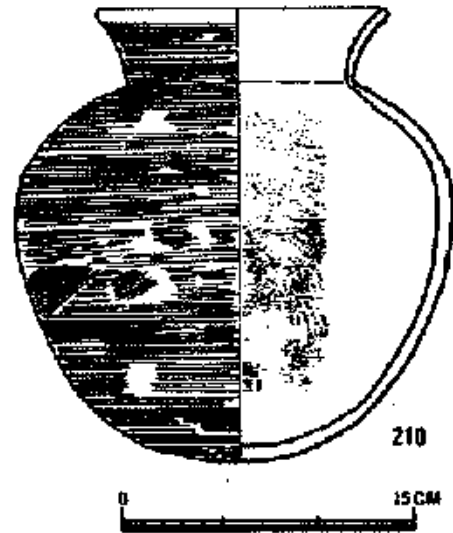


209



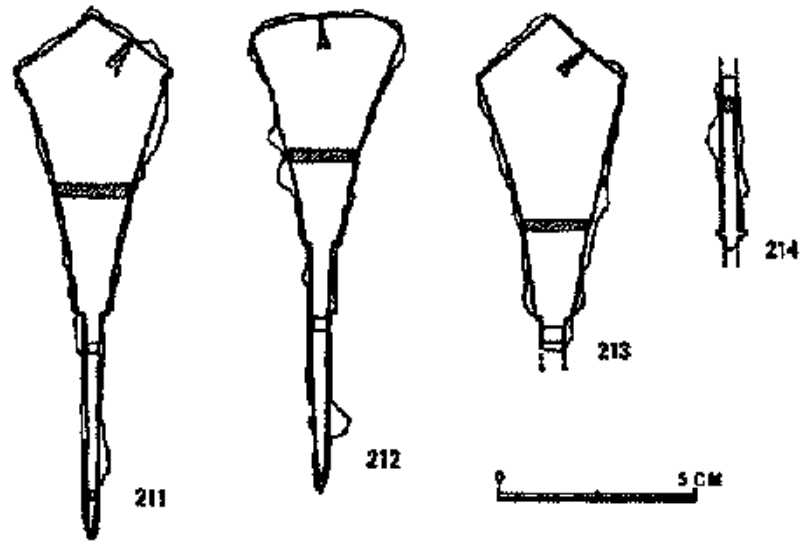
208

第38图 13号坑出土遗物实测图 (1/3)

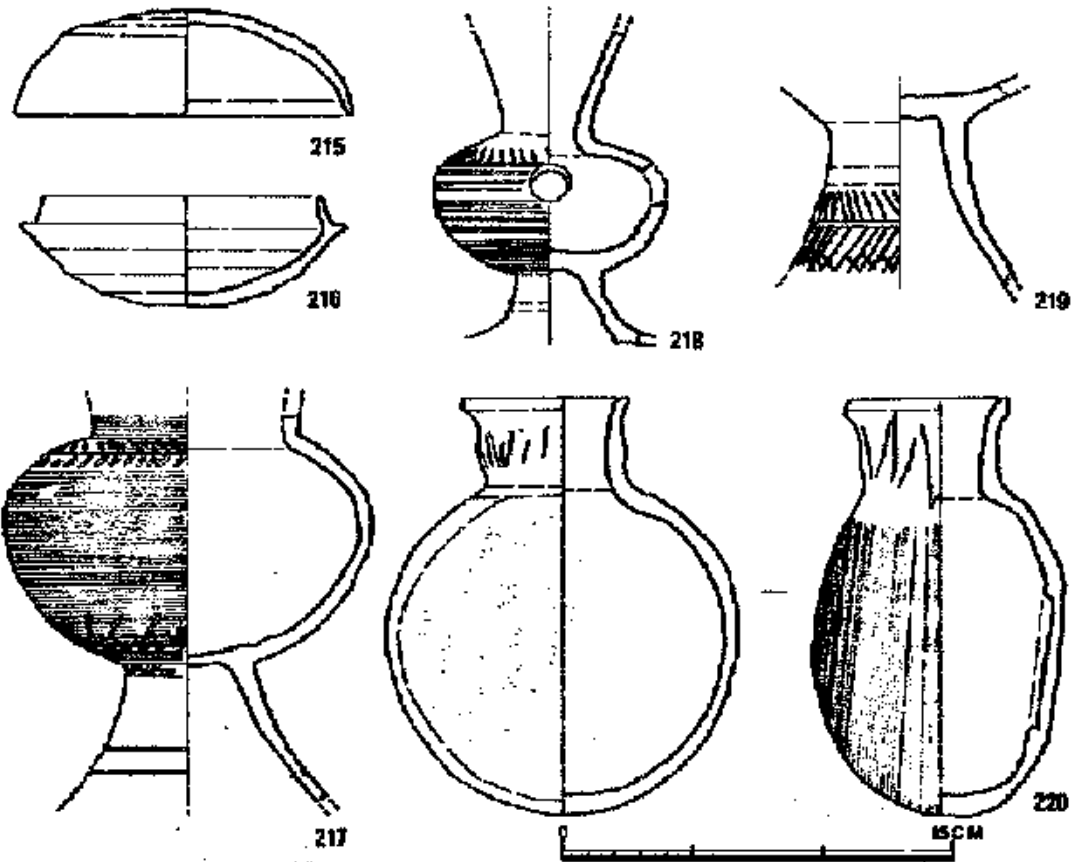


210

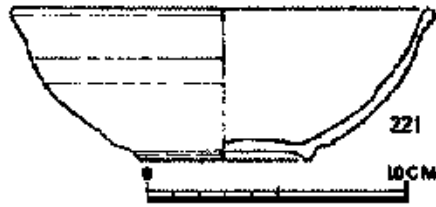
第39图 13-17号坑间层出土遗物实测图 (1/4)



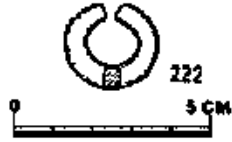
第40图 15号出土文物实测图1 (1/2)



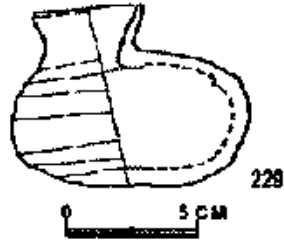
第41图 16号出土文物实测图2 (1/3)



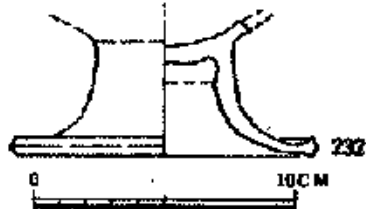
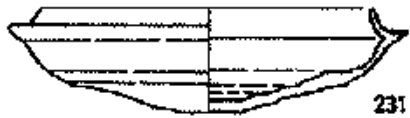
第42图 15号墳出土遺物実測図3 (1/3)



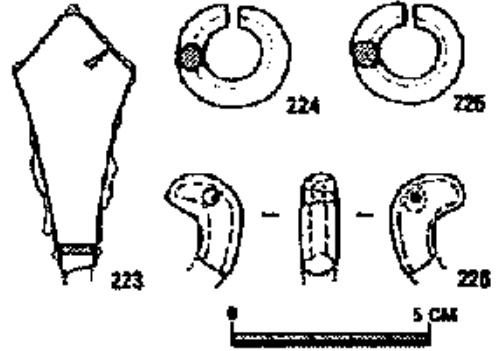
第43图 16号墳出土遺物実測図 (1/2)



第46图 20号墳出土遺物実測図 (1/3)



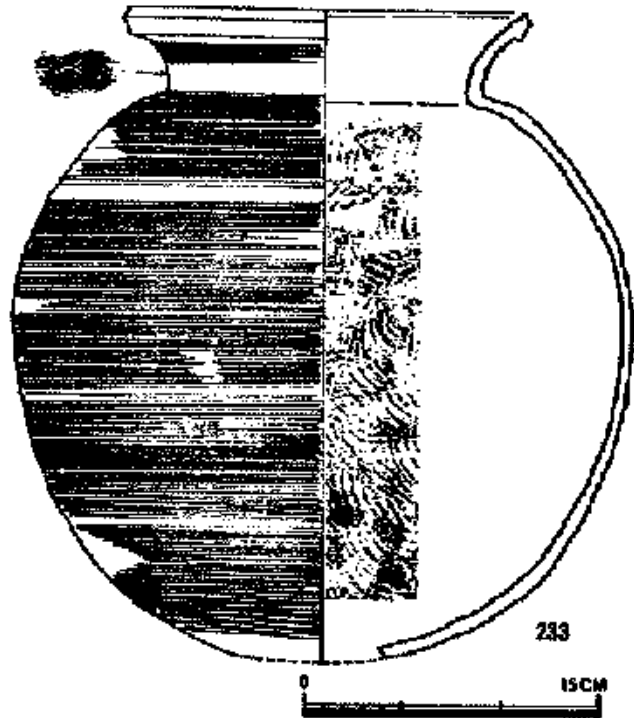
第47图 採集遺物実測図1 (1/3)



第44图 17号墳出土遺物実測図 (1/2)



第45图 18号墳出土遺物実測図 (1/2)



第48图 採集遺物実測図2 (1/4)

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 () は復元図

図番号	出土地点	種類・形状	分類	直径	高さ	厚	備考
11図1	1号墳南道	鉄器	Ia	7.0			身は三角形・両面、逆刺は重快、重快c
2	1号墳南道	鉄器	Ia	6.4			身は三角形・両面、逆刺は重快、重快c
3	1号墳南道	鉄器	Ia	5.0			身は三角形・両面、逆刺は重快
4	1号墳南道	鉄器	Ia	5.4			身は三角形・両面、逆刺は重快
5	1号墳南道	鉄器	Ia	4.0			身は三角形・両面、逆刺は重快
6	1号墳南道	鉄器	Ia	4.4			身は三角形・両面、逆刺は重快
7	1号墳南道	鉄器	Ia	4.0			身は三角形・両面、逆刺は重快
8	1号墳南道	鉄器	Ia	2.1			身は三角形・両面、逆刺は重快
9	1号墳南道	鉄器	Ib	6.9			身は三角形・両面、逆刺は重快、両面蓋
10	1号墳南道	鉄器	Ib	4.4			身は三角形・両面、逆刺は重快、両面蓋
11	1号墳南道	鉄器	V	5.2			身は三角形・両面、逆刺は重快、両面蓋
12	1号墳南道	鉄器		3.9			重快c
13	1号墳南道	鉄器		3.6			重快b
14	1号墳南道	鉄器		2.6			重快b
16	1号墳南道	鉄器		3.7			重快c
16	1号墳南道	鉄器		4.0			重快c
17	1号墳南道	銅製耳環?					断面円形
18	1号墳南道	水晶切子玉		1.8	径1.2		6面体、片面穿孔
19	1号墳南道	ガラス小玉		1.55	径0.8		淡青色
図番号	出土地点	種類・形状	分類	直径	高さ	厚	備考
12図20	1号墳南道	須恵器杯蓋	1	12.8	4.5		ロクロ口 逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2~3/6
21	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	12.2	4.2		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2~3/6
22	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	12.0	3.8		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2
23	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	11.8	4.4		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2
24	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	11.4	4.5		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2 天井部一部未調査
25	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	11.2	4.0		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り2/5
26	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	10.6	3.9		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2
27	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	10.5	3.5		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2
28	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	10.6	3.6		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り3/6
28	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	10.8	3.7		逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2 天井部未調査
図番号	出土地点	種類・形状	分類	直径	高さ	厚	備考
12図30	1号墳南道	須恵器杯蓋	3	11.4	4.2		ロクロ口 逆時計 内面天井 灰好 赤褐色 へろ削り1/2 天井部未調査

単位: cm

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覽 () 往復元徑

単位: cm

図番	出土地点	須恵器	分	口徑	器高	脚幅	脚高	胎土	焼成	色調	備考
13図51	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	3	10.8	4.5	12.6	0.8	逆時計	良	細砂粒混	赤茶褐色
32	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	4	10.6	9.9	12.6	1.1	時計	良	細砂粒多	灰黒色
33	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	5	10.0	5.0	12.4	1.7	時計	良	細砂粒混	赤茶褐色
34	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	6	10.4	4.5	12.6	0.55	逆時計	良	細砂粒混	赤茶褐色
35	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	5	10.4	4.4	12.6	1.0	逆時計	良	細砂粒混	灰褐色
36	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	5	10.0	9.4	12.0	0.95	逆時計	良	細砂粒混	灰褐色
37	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	5	9.5	4.4	11.8	1.0	逆時計	良	砂粒混	灰褐色
38	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	7	10.0	8.5	11.9	0.55	時計	良	細砂粒混	灰褐色
39	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	7	9.7	8.4	11.4	0.7	時計	良	細砂粒混	灰褐色
40	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	7	9.0	9.4	11.1	0.55	時計	良	細砂粒混	灰褐色
41	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	7	9.2	9.2	11.2	0.7	時計	良	細砂粒混	灰褐色
42	1号墳墓道埋土	須恵器杯身	7	9.5	2.9	11.5	0.6	時計	良	細砂粒混	灰褐色
図番	出土地点	器種・器形	分	口徑	器高	脚幅	脚高	胎土	焼成	色調	備考
13図43	1号墳墓道埋土	須恵器高杯		11.2	11.6	9.6	6.5	細砂粒	良	灰褐色	杯部カキ目、中に編織列点文
44	1号墳墓道埋土	須恵器高杯		10.6	12.2	10.8	7.0	精良	良	灰白色	杯部カキ目
45	1号墳墓道埋土	須恵器高杯		11.8	11.3	10.8	7.5	砂粒混	良	灰-灰黒	杯部カキ目、裏影している
46	1号墳墓道埋土	須恵器高杯		10.3	12.0	9.4	7.0	砂粒	良	灰褐色	杯-細カキ目
47	1号墳墓道埋土	須恵器高杯		11.4	9.1	8.5	6.6	砂粒	良	灰色	杯、脚部カキ目
48	1号墳墓道	須恵器高杯		10.6	10.0	8.2	6.0	砂粒	良	灰色	杯部、脚部カキ目
49	1号墳墓道	須恵器高杯		10.9	9.3	9.1	4.7	細砂粒	良	灰褐色	杯部カキ目、脚部穿孔
50	1号墳墓道	須恵器高杯		10.3	7.2	6.7	3.8	砂粒	良	灰褐色	杯部カキ目
51	1号墳墓道	須恵器高杯		10.9	14.8	9.7		細砂粒	良	灰褐色	全面カキ目
図番	出土地点	器種・器形	分	口徑	器高	脚幅	脚高	胎土	焼成	色調	備考
13図52	1号墳墓道	須恵器平楕		10.4	14.7	19.0		胎土	良	灰色	体部カキ目
53	1号墳墓道	須恵器平楕		8.2	12.7	17.2	有	細砂粒	良	灰褐色	体部カキ目
14図54	1号墳墓道	須恵器盤		18.1	31.5	31.5	有	細砂粒	良	灰-灰褐色	外上下がりの平行タタキ、後カキ目、内同心円文
55	1号墳墓道	須恵器盤		26.4	44.2	41.7		1mm砂粒	良	灰-灰褐色	外タタキをカキ目で消す。内タタキも同様
15図56	1号墳墓道	須恵器盤		25.8	47.5	45.6	有	細砂粒	良	灰-灰褐色	外平行タタキ、カキ目、内同心円文
図番	出土地点	器種・器形	分	口徑	器高	脚幅	脚高	胎土	焼成	色調	備考
16図57	1号墳墓道	土師器高杯		15.0	13.0	12.6	8.2	精良	不登	赤褐色	
58	1号墳墓道	土師器高杯		14.2	13.0			精良	良	赤褐色	
59	1号墳墓道	土師器高杯		14.4	10.0			精良	良	赤褐色	口縁、脚縁を欠く
60	1号墳墓道	土師器高杯		14.4	10.0			砂粒	良	赤褐色	脚部穿孔

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 () は復元径 単位: cm

図番	品名	材質	形状	寸法	備考			
280	116	6号墳前室床	鉄鍍	IIa	5.5	身は頭部は直線的、刃部断面は三角形		
	117	6号墳石室壁土	鉄鍍	IIb	5.4	身は頭部は直線的、刃部断面は三角形		
	118	6号墳前室床	鉄鍍	Ib	5.1	身は三角形、両側で逆鉋となる。刃部断面は片丸造		
	119	6号墳前室床	鉄鍍	Ib	4.1	身は三角形、両側で逆鉋となる。刃部断面は片丸造		
	120	6号墳前室床	鉄鍍	Ib	4.2	身は三角形、両側で逆鉋となる。刃部断面は片丸造		
	121	6号墳前室床	鉄鍍	IV	3.3	身は細頭形、刃部断面は片丸造		
	122	6号墳前室床	鉄鍍	IV	2.3	身は細頭形、刃部断面は片丸造		
	123	6号墳前室床	鉄鍍		7.8	短鍍片、鍍鍍b		
	124	6号墳前室床	鉄鍍		6.9	短鍍片、鍍鍍b		
	125	6号墳前室床	鉄鍍		7.0	短鍍片、鍍鍍c		
	126	6号墳前室床	鉄鍍		5.2	短鍍片、鍍鍍c		
	127	6号墳前室床	鉄鍍		5.5	短鍍片、鍍鍍c		
	128	6号墳前室床	鉄鍍		2.7	短鍍片、鍍鍍c		
	129	6号墳玉体部埋土	鉄刀		4.5	茎部片、留め釘残存		
	130	6号墳前室埋土	刀子		2.5	茎部の鍍片、留め釘穴あり。		
	131	6号墳前室埋土	刀子		2.8	刃部の切先		
	132	6号墳前室埋土	刀子?		4.0	形は刀子の切先であるが、刃部断面は片丸造りとなっており、鉋への転用か		
	133	6号墳前室埋土	刀子		3.7	鍍鍍の鍍片		
	134	6号墳前室埋土	鍍		3.5	切先の鍍片、断面は三角形		
	135	6号墳前室埋土	鉄片		3.5	刃部幅3.0、後部2.3、即選品で、茎部から刃部への溝の深りはゆるい。		
	136	6号墳前室埋土	鉄片		6.7	刃部幅4.0、後部3.1、即選品で、後部から刃部へは直線的に開いている。		
	281	137	6号墳前室埋土	鉄鉋	24.7	幅り部の一部鍍鍍、狭み部の先端は方形、幅り部の断面は方形。		
	138	6号墳前室埋土	鉄鍍		12.2	幅2.3、径孔0.7×1.5、上下端とも敲打による凹形あり、一端については蓋に利用か。重さ284g		
図番	139	6号墳前室床	鉄鍍・鍍形	分岐	口径	高さ	幅	備
	140	6号墳前室埋土	鉄鍍・鍍形	1	12.2	4.7	1	口径 口径 高さ 幅 備
	141	6号墳前室埋土	刀子		16.1			除刃の鍍鍍した刃部片を刀子に転用したものか
	142	6号墳前室埋土	ガラス丸玉		1.2	1.0		備
	143	6号墳前室埋土	ガラス丸玉		0.0	0.5		鍍鍍色
	144	6号墳前室埋土	ガラス丸玉		0.6	0.6		鍍鍍色
	145	6号墳前室埋土	ガラス丸玉		0.6	0.5		鍍鍍色
	146	6号墳前室埋土	土製玉		0.7	0.6		
	147	6号墳前室埋土	土製玉		0.8	0.6		

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 () は復元径 単位：cm

31図147	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
148	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.5	
149	9号墳後室埴土	土製瓦				0.6	0.3	
150	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.4	
151	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.7	
152	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
153	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
154	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
155	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
156	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
157	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
158	9号墳後室埴土	土製瓦				0.6	0.6	
159	9号墳後室埴土	土製瓦				0.9	0.5	
160	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
161	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
162	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
163	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.5	
164	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.5	
165	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.6	
166	9号墳後室埴土	土製瓦				0.8	0.5	
167	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
168	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.4	
169	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
170	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
171	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.4	
172	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
173	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.7	
174	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.3	
175	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.6	
176	9号墳後室埴土	土製瓦				0.6	0.5	
177	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.5	
178	9号墳後室埴土	土製瓦				0.7	0.4	
179	9号墳後室埴土	土製瓦				0.6	0.5	

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 () は復元様 単位: cm

図番	出土地点	種類・形状	分類	口径	口径	高さ	体積	重量	色	備考
31図180	9号墳後室埋土	土製玉			0.5	0.5				
31	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.6				
182	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.6				
183	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.5				
184	9号墳後室埋土	土製玉			0.8	0.4				
185	9号墳後室埋土	土製玉			0.8	0.4				
186	9号墳後室埋土	土製玉			0.8	0.5				
187	9号墳後室埋土	土製玉			0.8	0.5				
188	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.6				
189	9号墳後室埋土	土製玉			0.8	0.5				
190	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.4				
191	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.4				
192	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.6				
193	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.6				
194	9号墳後室埋土	土製玉			0.8	0.5				
195	9号墳後室埋土	土製玉			0.7	0.6				
196	9号墳後室埋土	土製玉			1.2	0.5				
図番	出土地点	種類・形状	分類	口径	口径	高さ	体積	重量	色	備考
33図187	9号墳溝	須賀川土器		8.3	17.9	13.3	10.8	6.0	灰色	
33	9号墳溝	須賀川土器		21.6					赤灰色	斜平行タタキ、朝町山ノ口
図番	出土地点	種類・形状	分類	口径	口径	高さ	体積	重量	色	備考
34図189	11号墳玄室	鉄製刀子		15.8						
200	11号墳玄室	鉄製刀子		7.7						
201	11号墳玄室	ガラス管玉			2.08	0.95			根緑色	
202	11号墳玄室	金銅製豆皿			1.55					
図番	出土地点	種類・形状	分類	口径	口径	高さ	体積	重量	色	備考
35図203	11号墳溝	須賀川土器		10.0	8.1		7.1	6.5	灰褐色	
図番	出土地点	種類・形状	分類	口径	口径	高さ	体積	重量	色	備考
36図204	11号墳溝	須賀川土器					13.1		赤褐色	
36	11号墳溝	須賀川土器		26.0					赤褐色	
206	11号墳溝	須賀川土器		21.4	30.5	28.6			赤褐色	
図番	出土地点	種類・形状	分類	口径	口径	高さ	体積	重量	色	備考
37図207	12号墳石室	鉄製刀子		5.5						

蓋部から刃部の破片、蓋部に水漬痕。

表3 朝町山ノ口遺跡出土遺物一覧 ()は復元径

単位: cm

図番号	出土地点	種類・形状	分 類	口 徑	高 度	体積最大値	脚 高	ヘラ記号	胎 土	焼 成	色 調	備 考
38図208	13号墳溝	須恵器小形須		15.6		21.3			細砂粒	良	灰褐色	内行ナナキ、内面心凹文
39図209	13・17号墳間溝	須恵器蓋				19.8			砂粒多い	良	灰-黒灰色	外行ナナキ、外縁点状
210	13・17号墳間溝	須恵器小形蓋		15.8	23.5	23.0			粗良	良	灰黒色	外方キ目
40図211	15号墳前室床	鉄線	IIa	33.8								身は定角となる。脚を造らない。蓋縁も概。蓋上位の断面は正方形。
212	15号墳前室床	鉄線	IIa	32.6								刃部平面形は概らむ。脚を造らない。蓋上位の断面は正方形。
213	15号墳前室床	鉄線	IIIa	8.9								身は定角となる。脚を造らない。蓋縁も概。蓋上位の断面は正方形。
214	15号墳前室床	鉄線		4.6								
41図215	15号墳蓋道	須恵器杯蓋	1	(12.8)	4.2				胎土	焼成	色調	備考
216	15号墳蓋道	須恵器杯身	2	10.8	4.3	12.5	1.1		砂粒多い	良	黒灰褐色	ヘラ割り1/2強
217	15号墳蓋道	須恵器脚付蓋					14.1		粗良	良好	灰赤-黒色	ヘラ割り1/2強
218	15号墳蓋道	須恵器脚付蓋					8.9		細砂粒	良好	灰-黒灰色	
219	15号墳蓋道	須恵器脚付蓋							砂粒	良好	黒灰色	
220	15号墳蓋道	須恵器脚付蓋		5.6	16.0				細砂粒	良好	灰色	頸部全周にヘラ記号
42図221	15号墳後室埋土	瓦器枕		16.4	6.0		13.4		粗良	不良	赤灰-黒色	
43図222	15号墳玄室	耳環		2.4×2.2								
44図223	17号墳玄室床	耳環		2.9×2.7	6.8							中央銅線貼り
224	17号墳玄室床	耳環		2.9×2.65								鎌身部片。身は定角となる。
225	17号墳玄室埋土	耳環		2.9×1.9								中央銅線貼り
226	17号墳玄室床	勾玉										メノウ
45図227	18号墳溝	刀子										刃部・茎部片
46図228	20号墳蓋道	須恵器杯蓋	4	11.1	3.2				胎土	焼成	色調	備考
229	20号墳玄室床	須恵器杯蓋		4.2	7.1	9.1			砂粒多い	良好	黒灰色	ヘラ割り1/2強
47図230	20号墳玄室床	須恵器杯身	8	12.1	2.6	9.6	0.2		砂粒	良好	色調	備考
48図231	20号墳玄室床	須恵器杯身	1	12.7	4.1	15.2	1.0		砂粒多い	良好	赤灰黒色	脚止ヘラ割り(4まで)
232	20号墳玄室床	須恵器脚付蓋							砂粒多い	良好	灰褐色	
48図233	20号墳玄室床	須恵器脚蓋		20.4	34.2		31.0		細砂粒	良好	灰褐色	

朝町山ノ口Ⅱ

福岡県宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告

宗像市文化財調査報告書 第34集

1991年3月

発行 宗像市教育委員会

福岡県宗像市東郷995番地

印刷 柳青雲印刷

北九州市小倉北区鎌谷4丁目1-1